

# BMB2015 大会運営についての アンケート 集計結果

ポジション別:大学・研究所等の常勤研究者

回答者数:870名

質問1. BMB2015に参加されましたか

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	参加した	763	87.7%						
回答2	参加しなかった	107	12.3%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問2. ポジションについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	学部学生	0	0.0%						
回答2	大学院生	0	0.0%						
回答3	ポスドク等非常勤研究者	0	0.0%						
回答4	企業研究者	0	0.0%						
回答5	大学・研究所等の常勤研究者	870	100.0%						
回答6	その他	0	0.0%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問3. 年齢について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	19歳以下	0	0.0%						
回答2	20-24歳	0	0.0%						
回答3	25-29歳	12	1.4%						
回答4	30-34歳	67	7.7%						
回答5	35-39歳	113	13.0%						
回答6	40-44歳	177	20.3%						
回答7	45-49歳	167	19.2%						
回答8	50-54歳	155	17.8%						
回答9	55-59歳	103	11.8%						
回答10	60-64歳	51	5.9%						
回答11	65-69歳	16	1.8%						
回答12	70歳以上	3	0.3%						
回答13	回答しない	6	0.7%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4. 所属する学会について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	日本分子生物学会	632	72.6%						
回答2	日本生化学会	564	64.8%						
回答3	日本細胞生物学会	87	10.0%						
回答4	日本発生生物学会	35	4.0%						
回答5	日本癌学会	145	16.7%						
回答6	日本神経科学学会	60	6.9%						
回答7	日本植物生理学会	26	3.0%						
回答8	日本免疫学会	54	6.2%						
回答9	日本遺伝学会	28	3.2%						
回答10	日本生物物理学会	45	5.2%						
回答11	その他	309	35.5%						
	合計	1,985							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	今回の形式・掲載内容を支持する	612	70.3%						
回答2	冊子版はもっと簡略化したダイジェスト版でよい	93	10.7%						
回答3	以前のA4判サイズのほうが見やすい	116	13.3%						
回答4	冊子印刷版は必要ない	72	8.3%						
回答5	特になし	25	2.9%						
回答6	その他	55	6.3%						
	合計	973							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問6. ITシステムについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」は使いやすかった	498	57.2%							
回答2 基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」が使いにくかった	77	8.9%							
回答3 WEBシステムとアプリで「マイルスケジュール」が同期できて便利だった	242	27.8%							
回答4 「マイルスケジュール」が使いにくかった	47	5.4%							
回答5 「会場ナビ機能」が役に立った	93	10.7%							
回答6 「会場ナビ機能」は役に立たなかった	67	7.7%							
回答7 アプリについてはオフライン利用のみで十分であると思う	38	4.4%							
回答8 「SNS機能(参加者⇄発表者)」が役に立った	29	3.3%							
回答9 ITシステム全般について評価していない	42	4.8%							
回答10 特になし	187	21.5%							
回答11 その他	144	16.6%							
合計	1,464								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 WEBシステム	198	22.8%							
回答2 アプリ	254	29.2%							
回答3 両方を利用した	140	16.1%							
回答4 いずれも使用していない	262	30.1%							
回答5 その他	16	1.8%							
合計	870								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 テーマは適切である	595	68.4%							
回答2 テーマが偏っている	86	9.9%							
回答3 海外からのシンポジストの数は適切であった	204	23.4%							
回答4 海外からのシンポジストはもっと増やしたほうがよい	179	20.6%							
回答5 特になし	305	35.1%							
回答6 その他	27	3.1%							
合計	1,396								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問9. ワークショップについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	テーマ・セッション数ともに適切である	524	60.2%						
回答2	テーマ・セッション数ともによくない	60	6.9%						
回答3	特になし	200	23.0%						
回答4	その他	86	9.9%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問10. 一般演題について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	プログラム編成・日程振り分けはよかった	332	38.2%						
回答2	プログラム編成・日程振り分けに不満が残った	180	20.7%						
回答3	ポスターセッションの時間(2時間)はちょうどよい長さだ	365	42.0%						
回答4	ポスターセッションの時間はもっと長いほうがよい	114	13.1%						
回答5	ポスターセッションの時間はもっと短かくてよい	36	4.1%						
回答6	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムはよかった	287	33.0%						
回答7	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムに不満が残った	58	6.7%						
回答8	特になし	123	14.1%						
回答9	その他	127	14.6%						
	合計	1,622							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	創業シンポジウム	106	12.2%						
回答2	市民公開講座	65	7.5%						
回答3	日本の科学を考える「ガチ議論」	134	15.4%						
回答4	BMB2015 研究倫理フォーラム	54	6.2%						
回答5	海外若手研究者招聘企画(旅費補助)	119	13.7%						
回答6	特別企画全般について評価していない	57	6.6%						
回答7	特になし	476	54.7%						
回答8	その他	50	5.7%						
	合計	1,061							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	よかった	333	38.3%						
回答2	よくなかった	19	2.2%						
回答3	参加していない	232	26.7%						
回答4	特になし	233	26.8%						
回答5	要望・その他	53	6.1%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問13. 「製薬・創薬面談ブース」について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	よかった	34	3.9%						
回答2	よくなかった	1	0.1%						
回答3	利用していない	677	77.8%						
回答4	特になし	134	15.4%						
回答5	その他	24	2.8%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問14. 本大会の規模について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	適当な規模である	470	54.0%						
回答2	大きすぎる	322	37.0%						
回答3	その他	78	9.0%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問15. 本年の開催形式(合同大会)について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	よかった	553	63.6%						
回答2	よくなかった	61	7.0%						
回答3	どちらでもない	203	23.3%						
回答4	その他	53	6.1%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	分子生物学会と生化学会の合同開催がよい	579	66.6%						
回答2	それぞれ単独開催がよい	170	19.5%						
回答3	他学会との合同開催も検討してほしい	118	13.6%						
回答4	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか	56	6.4%						
回答5	特になし	77	8.9%						
回答6	その他	61	7.0%						
	合計	1,061							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問17. 会員懇親会の開催について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	会員懇親会は特には必要ではない	625	71.8%						
回答2	可能であれば開催してほしい	68	7.8%						
回答3	特になし	149	17.1%						
回答4	その他	28	3.2%						
	合計	870							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本薬学会	14
日本農芸化学会	10
日本RNA学会	6
日本ウイルス学会	6
日本薬理学会	5
日本人類遺伝学会	4
日本放射線影響学会	4
日本化学会	3
日本生物工学会	3
日本糖質学会	3
日本内分泌学会	3
脂質生化学会	2
実験動物学会	2
日本エピジェネティクス研究会	2
日本プロテオーム学会	2
日本育種学会	2
日本栄養・食糧学会	2
日本寄生虫学会	2
日本顕微鏡学会	2
日本実験動物学会	2
日本植物学会	2
日本糖質学会、日本脂質生化学会	2
日本薬学会、日本糖質学会	2
日本臨床免疫学会	2
ASBMB, ASCB, SfN、日本認知症学会、ISTAART	1
ASBMB、生命倫理学会	1
ASBMBなど海外学会員	1
Endocrine Society, GRS	1
RNAi研究会	1
RNA学会	1
ウイルス学会、感染症学会、熱帯医学会	1
がんの分子標的治療学会、薬理学会	1
園芸学会	1
化学会	1
感染症学会、細菌学会、がん転移学会	1
肝臓学会、消化器病学会、アメリカがん学会、臨床検査学会	1
結晶学会、蛋白質科学会	1
酵母遺伝学フォーラム	1
高分子学会、ペプチド学会、ACS	1
脂質生化学会、日本ビタミン学会	1
時間生物学会	1
時間生物学界	1
循環器内科学会 日本血液学会 日本血栓止血学会 国際血栓止血学会	1
情報処理学会 (IPSJ)、バイオインフォマティクス学会 (JSBI)、日本薬学会、医薬品情報学会 (JASDI)、情報計算化学生物学会 (CBI)	1
生体エネルギー研究会	1
生物工学会、蛋白質科学会	1
生理 薬理	1
蛋白質科学会	1
電気化学会、蛋白質科学会	1
糖尿病学会	1
二本薬学会	1
日本CellDeath学会	1
日本RNA学会、日本ウイルス学会	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本進化学会	1
日本RNA学会、日本農芸化学会	1
日本アミノ酸学会、日本プロテオーム学会、	1
日本アミノ酸学会、日本薬学会、日本薬理学会、日本毒性学会、日本NO学会	1
日本アレルギー学会、日本血液学会	1
日本インターフェロン・サイトカイン学会	1
日本ウイルス学会、日本アイソトープ協会	1
日本ウイルス学会、日本臨床ウイルス学会	1
日本エピジェネティクス研究会、米国免疫学会、米国生化学分子生物学会	1



質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本がん分子標的治療学会	1
日本バイオイメージング学会、日本植物学会	1
日本バイオインフォマティクス学会	1
日本バイオインフォマティクス学会 情報処理学会 データベース学会	1
日本バイオマテリアル学会 日本生物工学会	1
日本ビタミン学会	1
日本プロテオーム学会 日本電気泳動学会	1
日本プロテオーム学会、日本電気泳動学会、日本薬学会、ASBMB、ACS	1
日本プロテオーム学会、病態プロテアーゼ学会	1
日本ペプチド学会、日本蛋白科学会、日本薬学会	1
日本ペプチド学会、日本薬学会、日本化学会 生体機能関連化学部会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本DDS学会、Controlled Release Society、American Chemical Society、日本膜学会、日本RNAi研究会、日本生物物理学会、日本薬学会 物理系薬学部会	1
日本ポリアミン学会	1
日本ミトコンドリア学会	1
日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本癌治療学会	1
日本育種学会、日本進化学会、日本植物生理学会	1
日本育種学会、農芸化学会	1
日本栄養・食糧学会 日本栄養改善学会	1
日本栄養食糧学会	1
日本化学会、アメリカ化学会、RNA学会	1
日本化学会、アメリカ化学会、アメリカ生物学会、ヨーロッパ光生物学会など	1
日本化学会、日本DDS学会、日本バイオマテリアル学会、日本高分子学会	1
日本化学会、日本質量分析学会、American Chemical Society、American Society for Mass Spectrometry、日本文化財科学会	1
日本化学会、日本蛋白質科学会	1
日本化学会、日本土壌肥料学会	1
日本化学会、日本農芸化学会、日本生物工学会、米国生化学分子生物学会、米国微生物学会	1
日本解剖学会	1
日本解剖学会、日本動物学会	1
日本核磁気共鳴学会	1
日本環境変異原学会	1
日本環境変異原学会、米国環境変異原ゲノミクス学会(EMGS)	1
日本癌学会、日本糖質学会	1
日本眼科学会	1
日本眼科学会、日本遺伝子診療学会、日本光医学光生物学会、眼科酸化ストレス研究会	1
日本基礎老化学会、日本抗加齢医学会、日本老年医学会	1
日本寄生虫学会、日本放射光学会、日本結晶学会、日本蛋白質科学会	1
日本結合組織学会、日本内科学会	1
日本結晶学会、日本薬学会	1
日本結晶学会、日本薬学会、日本蛋白質科学会	1
日本血液学会	1
日本血液学会、国際実験血液学会、米国血液学会、	1
日本血液学会、日本血栓止血学会	1
日本呼吸器学会	1
日本公衆衛生学会、ACS	1
日本抗加齢学会	1
日本骨代謝学会	1
日本骨代謝学会、日本解剖学会	1
日本骨代謝学会、日本筋学会	1
日本再生医療学会	1
日本細菌学会	1
日本細菌学会、日本栄養・食糧学会	1
日本細菌学会員	1
日本脂質生化学会	1
日本脂質生化学会、日本薬学会	1
日本脂質生化学会、日本油化学会、日本糖質学会	1
日本脂質生化学研究会	1
日本時間生物学会	1
日本質量分析学会、日本医用マススペクトル学会	1
日本実験動物学会、日本薬理学会	1
日本植物学会・光合成学会・日本森林学会・American Society of Plant Biologists	1
日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学会	1
日本食品科学工学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本神経化学会、Society for Neuroscience	1
日本神経化学会、日本薬理学会	1
日本神経化学会、老年精神医学会、医学教育学会	1
日本神経学会	1
日本神経学会、日本自律神経学会、日本神経治療学会	1
日本神経免疫学会 日本小児神経学会	1
日本人類遺伝学会ほか	1
日本睡眠学会 日本ストレス学会 日本組織細胞化学会 日本生理学会	1
日本生化学会	1
日本生物工学会、日本再生医療学会、化学工学会	1
日本生物物理学会、日本化学会	1
日本生理学会	1
日本生理学会 日本内分泌学会 日本肥満学会 日本糖尿病学会	1
日本生理学会、日本免疫学会、日本骨代謝学会、日本微量元素学会、日本トランスポーター研究会	1
日本先天異常学会、炎症再生学会、歯科基礎医学会、解剖学会	1
日本組織培養学会	1
日本体力医学会、日本運動生理学会	1
日本蛋白質科学会	1
日本蛋白質科学会 日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会 日本薬学会	1
日本蛋白質科学会、日本核磁気共鳴学会、日本RNA学会	1
日本蛋白質科学会、日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会、日本分光学会、日本核磁気共鳴学会	1
日本蛋白質科学会、日本薬学会、日本核磁気共鳴学会	1
日本畜産学会	1
日本畜産学会、関東畜産学会、肉用牛研究会	1
日本電気泳動学会	1
日本糖質学会 日本核磁気共鳴学会 日本バイオイメージング学会 日本質量分析学会	1
日本糖質学会、日本潰瘍学会、日本消化器病学会	1
日本糖質学会、脂質生化学会	1
日本糖質学会、日本薬学会、日本ウイルス学会	1
日本糖尿病学会、日本糖質学会、日本脂質生化学会、日本薬学会	1
日本動物学会	1
日本動物学会、日本水産学会	1
日本動物学会、日本生物教育学会	1
日本動物学会、日本卵子学会	1
日本内科学会 日本血液学会 日本臨床検査医学会 日本感染症学会 American Society of Hematology 日本臨床腫瘍学会	1
日本内科学会、日本リウマチ学会、日本ウイルス学会、日本AIDS学会	1
日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会	1
日本農芸化学会 日本細菌学会	1
日本農芸化学会 日本細菌学会	1
日本農芸化学会 日本動物学会	1
日本農芸化学会、日本化学会	1
日本農芸化学会、環境バイオテクノロジー学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本農芸化学会、日本ビタミン学会、日本薬物動態学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会	1
日本農芸化学会、日本栄養食糧学会	1
日本農芸化学会、日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会	1
日本農芸化学会、日本時間生物学会	1
日本農芸化学会、日本獣医学会	1
日本農芸化学会、日本食品科学工学会	1
日本農芸化学会、日本食品科学工学会、日本バイオインフォマティクス学会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会、日本菌学会、日本きのこ学会	1
日本農芸化学会、日本電気泳動学会、日本プロテオーム学会、日本蚕糸昆虫学会	1
日本農芸化学会、日本薬学会、日本神経化学会	1
日本農芸化学会、日本薬物動態学会、日本化学会	1
日本農芸化学会、放線菌学会	1
日本農芸学会	1
日本発生生物学会、日本薬学会	1
日本泌尿器科学会、日本糖質学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本病態プロテアーゼ学会、臨床ストレス応答学会	1
日本病理学会、AACR、日本臨床口腔病理学会	1
日本病理学会、日本腎臓学会	1
日本放射線影響学会 日本光医学・光生物学会	1
日本放射線影響学会、ストレス学会	1
日本放射線影響学会、日本循環器学会、日本循環器病予防学会、日本病態プロテアーゼ学会	1
日本法科学技術学会、日本DNA多型学会	1
日本膜学会、日本動物学会、日本血液学会	1
日本未病システム学会、日本機能性医用学会、日本キチン・キトサン学会、日本ファンクショナルフード学会、日本抗加齢医学会、日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本細菌学会、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本ビタミン学会、日本化学会、日本薬学会、日本分析化学会	1
日本薬学会 日本糖質学会	1
日本薬学会 日本臨床検査学会 日本臨床化学会	1
日本薬学会、日本エイズ学会、日本ウイルス学会	1
日本薬学会、日本セルデス学会、AAAS	1
日本薬学会、日本医療薬学会、日本薬物動態学会	1
日本薬学会、日本脂質生化学会、日本脂質栄養学会	1
日本薬学会、日本毒性学会、日本薬物動態学会、カルボニル化合物代謝の酵素学及び分子生物学国際会議	1
日本薬学会、日本薬理学会	1
日本薬剤学会、日本薬学会	1
日本薬理学会、マリンバイオテクノロジー学会	1
日本薬理学会、日本皮膚科学会、北米神経科学会	1
日本薬理学会、日本薬学会	1
農芸化学会	1
微量栄養素学会	1
放射線影響学会、産業衛生学会	1
薬学会、ビタミン学会	1
老年精神医学学会	1

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	アプリを使用したため、冊子は使用しなかった
※	会場で配布されたダイジェスト版が便利だった。
※	要旨を掲載するか、全要旨ののった検索可能なPDFを配布してほしい。
※	冊子は事前登録者が家で見るとするには大きい方が見やすくよい。これもネットが苦手な希望者のみに有料で配布にすべき。冊子は、前から思っているが一枚ずつ切り取れる形式にしてもよい。要旨をPOしてノート代わりにしているが直接できればよい。ポケット版が大変役立った。素晴らしい発案。
※	両方の学会から1冊ずつ送付されてきて大変無駄だと思いました。
※	冊子の最後にメモが記入できる様な白紙のページが欲しい。
※	やはり数年後に要旨を見たい時は、保管されている印刷版になる。要旨集として、10年ぐらい閲覧が可能なWebサービスがあれば、紙版は要らなくなると思うが、現状では必要。
※	部厚くて鞆への収納に困った。
※	スマホ・タブレットを持っていない人も多いので、冊子体の内容を一括してpdfでダウンロードできるようにして欲しい。
※	軽量化するなら、サイズは以前と同じで薄い(ページが少ない)ほうがいい。
※	関心のある演題についてのみ抄録をダウンロードして個人ごとに抄録集を編集して学会場にパソコンなどで持ち込めるようにしていただくと理想的だと思います。
※	会場においてあった薄いプログラムガイドも郵送してほしい。会場ではこれとアプリで十分。冊子は保存用にするのでA4がよい。
※	冊子が分厚くて持ち運びに不便(かばんの中でA4サイズよりもスペースをとる)
※	B5判で厚さが薄めのものが持ち運びしやすい。
※	毎年サイズが変わるのは困ります。
※	ちいさく分厚いよりも、大きく薄い方が持ち運びやすい。どうせA4程度の書類がはいる鞆を持ち歩くのだから、小さくすることに利便性を感じませんでした。
※	日にち別の方が見やすいと思います。
※	lateエントリーの内容が記載されておらず、ほとんど誰も来なかったそうなので、lateエントリーの意味が全く無かった。プログラム集冊子に記載できないなら、lateエントリーは廃止すべきである。
※	A4サイズで厚みを少なくして下さい。
※	冊子を印刷しないかわりに、Web公開を早めてほしい。
※	キーワードの索引があったほうが良い
※	プログラム集ではタイトルが日本語で、ポスターのタイトルが英語だった場合、発表番号をうろ覚えだとidentifyできなかつた。できれば、プログラム集かポスターか、どちらかを日本語・英語併記してほしい。
※	久しぶりの参加のせいもあったかと思いますが、セッションの区分けの読み取りが、少し見づらい気がした。
※	シンポジウムとワークショップの演題だけ、要旨を掲載してくれると良い。
※	冊子版は学会発表記録資料として必要なので支持します。事前配布版→A4 当日配布版(ダイジェスト軽量版)→A5 だとうれしいです。小さいものが見えないので、事前配布版はとも読みにづらかったです。A4でもっと大きい字にしてみらえると助かります。会場でA5のダイジェスト版が無料で置かれていたのを見て、ダイジェスト版が当日配布されることを予めご案内いただきたかったです。当日重い冊子版を会場に持っていかずに済んだので。
※	ちょっと分厚かったのでも、同じ文字サイズのままA4版にしてページ数を減らした方がいいかもしれません。
※	冊子体は持ち運びしやすくて良かったです。会場で配布されていたタイムテーブル表は字が小さすぎて見づらい。
※	ポスターの部分は冊子に無くても良い、そもそも冊子は研究室に置いたままですが
※	学会会場で配布されていたという噂の最大ミニサイズを先に全員に配布して欲しかったです。私は知りませんでした。
※	今版は分厚いので、A4で薄いものが良い。
※	会場に置かれていた、会場案内とスケジュールの書いてある簡易版冊子もとても役に立ちました。
※	持ち運びが便利で、非常によかった。
※	演題名を所属およびキーワードで調べられるようにしてほしい
※	A5判化によりとても厚くなった結果、鞆に収まりにくくなり、持ち運びに不便であった。
※	1日ごとにまとめて分冊として持てるように分けられるとうれしい。
※	プログラム集冊子は開封しませんでした。現地へ行ったらWiFiが使えなかったため自分の発表場所すらわからず、受付にあったリーフレットを重用しました。
※	冊子体の索引部分は印字が薄く読みにくかった
※	A4版に戻して薄くしてほしい
※	会場で配布していただいたミニ版が非常に役に立ちました。あれを事前に同時発送していただくと助かります。あと、アプリは非常によかったです。
※	日程だけが書かれた小さな紙一枚を印刷版としていただければ十分だと思います。冊子版はまったく読みません。
※	字が小さくて読みづらかった。
※	A4サイズよりも圧倒的に持ち運びが楽なので、今回のサイズは良かったです。
※	持ち運びなど取り扱い易い冊子サイズで良かった。文字サイズも適切だった。
※	索引も不要かもしれません。
※	厚みがあって鞆に入れにくいです。
※	冊子版のページ数は携行には重すぎる現行の10%程度で良い。
※	A4よりもコンパクトで持ち運びしやすくて良いと思います。
※	A5だと厚みがでてるので鞆に入れた際にかさ張る。A4サイズでいいので、その分厚みを減らして欲しい。
※	在米研究中
※	冊子体がないと、過去の発表がわからないので、是非残してください。
※	演者じゃだけでなく、キーワードでもインデックスを作ってほしい。印刷版は、やっぱり欲しい。
※	会場にあったダイジェスト版も便利だった

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	タイムテーブルのみ、もっと大きい印字のものが欲しい。(A4版綴じ込み、別紙など)
※	今回の形式・掲載内容を維持し、A4版で今回の半分の「薄さ」にすることはできないか？
※	過去の大会のプログラムについて、期限を決めずに(会員限定で)閲覧可能にもらえるとうれしいです。最近、履歴書などに「ポスター番号も記載すること」と求められるものがたまにありますが、冊子版のプログラムはいずれ廃棄されます。オンラインでいつでも検索できる(もしくは検索できなくてもPDF化したプログラムだけは残っている)状態は、とてもありがたいです。



質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	アプリは使いやすくて良かったのですが、動作が遅かったのが残念です。
※	プログラム検索の動作が遅かった。
※	一部の会場のネットワーク環境が不安定なことが大変不便だった。
※	選択したものがまとめてダウンロードできるのがよかった。
※	会場ナビ機能に気が付いたのが会期の後半から、たまたま迷い込んで使った時からで、使える時は便利なのですが、どうやってそこに入ったのか分からず、結局使い切らないまま終わってしまいました。ホテルの地下の会場が大きく2つに分かれていて、どの番号で切れるのかが分からず、会場が分からなくなったことがありました。
※	Key ward 検索が必要
※	マイスケジュールは、良い機能でしたが、登録数が増えるとアプリが重くなってしまい、表示がスムーズでなくなりました。この点が改善されると良いと思います。
※	スケジュールしている人の多いものだけをフィルタリングできるとありがたい。
※	自分のタブレットではアプリが起動できなかった(Android)
※	使っていない
※	モバイルを持っていないので使用しなかった
※	一日のプログラム全体が閲覧できるようにして欲しい(あったが見つからなかっただけなのか?)
※	メニューをタップしてからの反応がもう少し早いと使いやすい。iOS8.1のiPad2の使用であるがタップしてから次の画面に移るまで5から10秒くらいずつかかる。各発表者の抄録画面に行くとキーワードと抄録が載っていて分かりやすいが、ここに著者と所属も載せてほしい。研究内容は著者および所属研究室と紐づけて把握するので、面白かった発表は、戻るボタンで戻って著者を確認していたが、抄録内にあった方が便利であった。
※	4日目にアクセスポイントがなかったため、非常に不便であった。(ワークショップ等を含む)口頭発表会場にもアクセスポイントを設置しないと、軽量化?に繋がらない。
※	アプリのマイスケジュールで登録した演題から会場の場所のリンクがなく、会場の場所を探すのが不便だった マイスケジュールで登録した演題からそのセッション全体へのリンクがなく、前後の演題をすぐにとどれず不便だった
※	検索で引っかかった演題から、その演題が含まれるセッション全体を見たいときなど、少し不便だった。また座長やコーディネーターが判らない。
※	昭和の人間でなし、スマホも持っていないので、余り使わなかった。
※	ダウンロードしましたが、結局、使用しませんでした。冊子版のプログラム集が無ければ活用したと思います。
※	不満とは言えないが、さらなる最適化を求める。特にスマホとタブレット両方からログインができなかったようである。同一IDからのログインの規制については、もう少し拡大適用を求める。
※	「スケジュール」数、「いいね！」数を演題ごとに表示する理由をお聞かせいただきたいです。人気がある演題を講演した方は優越感に浸れたかも知れませんが、人気のない演題を講演された方はどのような思いでいらしたのか、想像したことがありますか?「スケジュール」数や「いいね！」数を表示することは、「人気がある演題=良い仕事」、「人気のない演題=それほどでもない仕事」、といった具合に(特に若い人に)先入観を植え付けるだけのように思います。是非、やめていただきたいです。
※	OSが古かったので、アプリケーションが使えなかった。会場でネットワークが切れて、PCでも要旨が見られなかった。
※	アプリで個々の演題名や要旨が見れるのは良かったが、座長名を確認しにくかった
※	キーワード検索の機能があればもっとよいと思った。
※	興味のあるシンポジウムやWSIに関してセッションの演題要旨を学会当日までにPCからプリントして持参している。そのため、各演題要旨ごとの打ち出しだけでなく、当該セッションの演題要旨を一まとめで打ち出すことのできる機能があるとうい。もしくは、一つのセッションの全ての演題要旨を一つのPDFにしたものが提示されていればそれでもよい。
※	PDF版のプログラム集がシンポジウム、ワークショップ等の各セッションごとに分かれていて、使いづらかった。一つのファイルにしたファイルも作成してほしい。スマートフォンでのアプリがあるなら、オフラインのパソコンでも使える様なソフトがほしい。
※	最初にオンラインで登録?か何かをしないと使えないのが不便でした。用意してから行けば良かったのですが、今回はwifiも少なかったため最初の日あまり利用できませんでした。
※	学会員で会費を納入している者であれば、ITシステムの利用はフルに可能であるべきと考えます。今回、各種機能の利用を事前登録者のみに限られた理由と目的は何でしょうか? 日程調整して当日参加となった者にも、会場到着前までの「マイスケジュール」等利用には役立つものがあると思います。
※	参加者検索を行った際、発表者は検索できたが共同演者に関しては該当者なし!!と表示され、検索できなかった。
※	Late-breaking だったせいか、一部のポスターに関して、タイトルや著者をキーワードで検索しても検索できず、ポスター番号でのみ可能でした。
※	いつまでアプリが使えるのか疑問 オフライン時に検索等が使えず大変不便 メモ機能は評価できる
※	マイスケジュールからタイムテーブルの図を作成できると便利だと思った
※	WEBシステムではダウンロードできなくて使いにくかった。
※	アプリに比べて、webシステムが貧弱(オフラインで見られない)
※	大会後すぐに要旨閲覧システムを閉じるのではなく、数年は維持してもらえると助かります。
※	良かったが、tabletでは動きが重く使い勝手はよくなかった。
※	ITシステムについての意欲的な取り組みは強化できますが、費用の面(もっとスリムにして安価にできるのではないかと、その分を会場運営などに回せるのではないかと)も含めて改善の余地があると思われました。
※	アプリについては、最新データにアップデートするたびに、強制終了される不具合が結局改善されないままであった(Android)
※	PDF表示にしないと発表者が表示されなかったり、要旨表示からセッション内容へリンクができていなかったりといったところが不便でした。「いいね」ボタンは氏名非表示でいいのでは。
※	要旨の画面で、メモ機能が使いにくい。同一画面で二分割してほしい。メモは後で外部に保存できるようにしてほしい。同一セッションの要旨はスワイプで移動したい。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	もし冊子のプログラムを廃止するならば、電子版はオフラインで使える物にしてもらわないと困る。特に会場のWiFiに限られていた今回のような状況では。
※	マイスケジュールが、タイムテーブル上でセッションとしてだけ表示されるのは残念。時間帯で出ないとスケジュール管理に不便(大きな学会ではセッション間で移動したいので)。
※	要旨を確認後、元画面に戻ると、そのセッションの最初に戻ってしまうのは非常に不便。確認した要旨のタイトル画面に戻るよう改善を望みます。
※	マイスケジュールに登録した発表のプログラムと要旨をPDF化できる機能が便利だった
※	システム利用を前提とした学会にするならば、会場内すべての場所でWiFi接続を確保していただきたいです。今回はポートピアホテル地階など接続できない場所が多くて困りました。
※	現在進行中の講演が便利でした
※	iOS6.0で使えると聞いていたが、iPod TouchのiOS6.0では立ち上げられず使えなかった。
※	同期していないと、スケジュールに登録している数が0になるのが扱いにくかったです。
※	会場が分散しており、小さな会場ではWiFiが接続できず、透け受=るの確認ができなかった。
※	ITシステムは利用しなかった
※	マイスケジュールに登録した演題から、前後の演題に飛べないのが不満
※	リンクの設定が不十分で使い勝手は悪かった。例えばあるセッションの発表をマイスケジュールに選んだ後にそのセッションの他の発表を見ようとするとセッション別の項目にもどる必要があった。他の学会でのアプリはもう少し便利であった。
※	自分の発表関連の要旨等をPDFで保管できるのは非常に良いと思います。
※	問題は無いのだが、一言述べるとすれば、アプリの項目がとて多く、目的の項目を探すのにやや手間がかかること。この手のアプリは統一的なフォーマットを作ったら年度ごとにあれこれあまり変えず、多少の追加削減のみで対応することも検討して良いのでは?と思う。
※	スマホ等所持していない
※	マイスケジュールは、その日の予定が上からずらっとならぶだけなので、ポスターと他を分けるや、セッションごとに並べて表示する等見やすくするために改善が必要だと思った。アプリの不調の改善とアナウンスが早いのは好印象だった。
※	WiFiを使える場所が限定されすぎている。
※	スマホを持っていない。
※	各公演ごとのメモ欄に、スタイラスで手書きの図やメモなども記入できるようになると便利
※	マイスケジュールをタイムテーブルのような図で示せると良かったと思う
※	IT音痴なので、ほとんど使わなかった。学生たちにはとても評判が良かった。
※	凄く便利でしたが、神戸はネット環境があまり良くない印象で、その点は改善の余地があるような気がします。
※	アプリが急に終了してしまうことが多かった。
※	特定の発表を閲覧した際に、そのセッション全体に戻れるような機能がほしいかった。
※	前回のようプログラムPDFを自分で検索したほうが楽だった。
※	共著者名でプログラム検索ができなかったのが不満
※	アプリで要旨閲覧がオフラインでできなかったため、WEBの使えない会場では要旨閲覧できず困った。要旨も含めてダウンロードできると良かった。
※	参加していないので分かりません。
※	アプリの検索が使いづらかったです。姓名検索で姓と名の間にスペースなしだと検索できなかったような気がしたのですが。
※	検索して出てきた発表を一括でスケジュールに登録するボタンが必要。
※	非常に良かった。
※	「夜ゼミ」が無くなっていたのが残念だった。異分野の研究者と交流する良い機会だと思うので復活してほしい。
※	マイスケジュールを時系列配列にし、会場ナビ機能と合わせてもらえると、移動がしやすい。イメージとしては、乗り換え検索アプリのイメージ。歩く速度の設定、希望演題を選択すると、いくつかの可能なスケジュールが会場とともに表示される。必要に応じて、会場地図で順路を表示させる。
※	キーワード検索があまりうまく機能していなかったという印象を持った
※	会場のWiFiに費用がかかりすぎる。会場を少し出るとすぐ使えないと聞く。それならば、最初から利用できるエリアを制限し、予算は他に使う方がよい。
※	使っていない。
※	使用せず
※	アンドロイドのスマートフォンにアプリをインストールしましたが、アプリが強制終了する不具合がたびたびありました。
※	いいねとか参加者発表者のメールはいらぬ。口で質問したり、行ってその研究者と話し合うのが学会だし、教育的であると思う。
※	マイスケジュールがセッション単位で抄録を読む機能がほしい。つまりマイスケジュールに登録した発表の前後にどのような発表があるのか、いったん最初のプログラムまで戻らないと見れない。また共同演者での検索機能がほしい。
※	Wi-Fiのエリアがポスター会場近辺だけだったと思うのですが、おかげでワークショップ会場などでプログラムが確認できず今まで参加した分生の中で最高に苛立ちました。
※	昨年の生化学会のアプリよりも使いやすかったです。特に会場ナビ機能は重宝させていただきました。発表者で検索した結果表示された演題がマイスケジュールに登録できず不便だったので、改善願います(nexus 7タブレット)。
※	会場ナビは便利でしたが、神戸では会場が分散されているので各会場の建物そのものの位置が掲載されている地図もあればもっと便利だったと思います。商工会議所〇〇室と書いてあってもその建物自体の場所がアプリの地図ではわからなかった。SNS機能は見たところほとんど使われていないのではないかと思います。評議員の先生方などに先陣を切つて積極的にコメントを書き込んでいただくようにしたら一般の参加者の利用も促進されるかもしれません。
※	使用していない。面倒なので。学会終了後に気になったところを後で見返す予定。
※	よくわからないので、使っていない。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	まとめて全体がダウンロードできる形式を要望します。
※	ややこしいように思われたのでITシステムを使いませんでした。
※	使っていないのでわかりません
※	「SNS機能(参加者⇄発表者)」は使われているのだろうか？
※	ネットの繋がりが悪く使いませんでした。
※	アプリ上で要旨が見れる方が良かった。
※	データが名寄せされておらず、所属機関などの名前が多数登録されており、大変不便でした。それも含めて検索機能が充実しておらず、大変残念でした。
※	iOS、アンドロイド以外にウィンドウズ用アプリを用意してほしい。持っているタブレットがウィンドウズなので。
※	使っていないのでわからない。
※	人名で検索した際に演題に移動できないなど、リンクの不備があって少し使いにくかったです。
※	どういう目線で見る事を想定しているのか、わかりにくいので、なんとなく中途半端な作りになっていると思う。SNS機能は、idealは面白いと思うが、使った人っているんでしょうか？ 検索後の表示も、できればGoogleの結果のように、スニペットをつけて欲しい。でないと、本当に検索したいものと、間違っ引っかけってしまったものを事前に判断できないので、いちいち一つ一つ開いていくのでは、非効率すぎる。
※	講演会場内でインターネットへの接続環境がなかったため、とても使いにくかった。講演会場内でのネットへのアクセス環境が準備できないのであれば、オフラインの機能を充実させて欲しい。
※	検索した結果をマイスケジュールに追加できるようにしてほしい。マイスケジュールは時系列で並ぶようにしてほしい。
※	更新回数が多く使用しにくかった。学会では興味のある演題抄録のみ印刷して参加した。
※	参加予定人数や「いいね」の人数がわかるのが良かったです。時々、情報が読み込めないことがあり、アプリを再起動する必要がありました。
※	Androidアプリの機能は良いが動作が重い。前の画面に戻ったときにスクロール位置がリセットされるのが不便。
※	自分の関連発表にすぐに辿り着けるのが良かった
※	使いづらかったが試みとしては面白かったし今後も続けて欲しい。
※	マイスケジュールがカレンダー表記だと、同一時間帯の複数の講演がわかるので使いやすいと思います。
※	アプリ自体が同期の影響か、動作が重く感じた。マイスケジュールについては、現在時刻以前のものがいつも表示される為、次のスケジュール表示にいつもスクロールの必要があり使いづらい。
※	ほとんど使いこなしていません。いくつかの要旨をダウンロードしたのみです。
※	使用しなかった(冊子のみ参照して、内容は会場で見た)
※	今回たまたまアプリの利用をしなかったのですが、座長席に、印刷したプログラム、要旨または、ネット環境がある必要を感じた。WEBシステムで対応しようとしたが、ネット環境が無く、アプリが利用できない場合、非常に困った。
※	アプリをインストールする際、スマートフォンのSNSや電話帳、アドレス帳等の個人情報を要求していたが、その機能は私には不要である。自動的に結びつけられることに不安もあり、使いたくない。結びつけるかどうかは個人に選択してほしい。アプリのOS条件が新しいものだけに限られ、古いスマートフォンやタブレットが使用できなかった。お金がないので、学会の規定に合わせたIT機器を揃える事はできない。会場のwifi環境が悪すぎる。アプリが勝手に更新され、再起動しないと動かなくなり、不便。抄録の確認が演題ごとにならなくなり不便。セッションごとにもできるようにしてほしい。
※	検索が遅いと感じた
※	検索した演題をマイスケジュールに登録できればなおよかった。
※	会場でWi-Fiが機能しない時間が多かった。
※	専用のカレンダー管理アプリがあると、iOSのカレンダー内の予定と重複して見にくくならず済むのではないかと思った。
※	アプリダウンロードが面倒で、結局使わなかった
※	全ての会場でWiFiが使えたわけではないので、G3/G4接続をしないデバイス(タブレット)を持っていた人間にとっては、必ずしも同期などの機能が使いやすいは無かった。
※	ページの切替動作が遅かったので、動作等の改善を希望します。また、マイスケジュールに登録した発表をまとめたPDF作成機能はすばらしいと思います。
※	スマホを持っていないので最初から使うことは考えなかった。
※	Wi-Fiの使用できる範囲を広げてほしい
※	自分の発表をスケジュールに組み込んでくれる方々の人数がわかるシステムがとても気に入っています。モチベーションが上がります。
※	年々アプリの使い勝手が高まっており、ありがたいです。オフラインでも要旨が読めたのが便利でした。来年もぜひ、この方向でお願いします。
※	要旨閲覧からプログラム一覧に戻ると、セッションの先頭からの表示になってしまうのが唯一の難点。もとのスクロール位置に戻るとベストだった。
※	アプリの動作が悪く、肝心なときに使えないことが何回かあった。
※	アプリがすごく便利でした。私は検索機能がかなり助かりました。
※	要旨にたどり着くまでにいくつかステップがあったので、もう少し減らし、要旨本文に簡単にアクセスできるようにする。また、発表者以外の著者も見にくかった。
※	検索機能が不十分だったと思う。特にマルチワードに対応していたかったように思う。発表していない参加者も検索できたらいいと思うが難しいのであろうか。
※	すごく便利だった。今後も続けて欲しい。
※	プログラムの一覧表がほしい(プログラム集と同等のもの)。
※	機能を十分に使いこなしていないが便利であり、今後も導入していただきたい。



質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	システム自体は使いやすく設計されていたと思うので評価しているが、スマホもタブレットも持っていないPCのみのユーザーは、会場の大部分でWiFiが使えなかったためにPCからのアプリの閲覧ができず、せっかくのシステムをほとんど活用できなかった。一部のランチョンセミナーや企画において利用された双方向システムも同様で、PCへの対応を考慮してほしい。
※	印刷版の要旨集をつくらない理由がわからない。コスト削減というが、参加者は参加料を支払っている。その金額で要旨集はまかなえなければおかしいと思う。
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	マイスケジュールの中から要旨閲覧等の選択や時間系列だけでなくセッションごとの管理ができるとうい。
※	ワークショップなどは、演題を続けて要旨を印刷できましたが、ポスター発表など、この要旨を一括印刷することができませんでした。両面や割り付けで印刷したかったので、チェックを入れた演題の要旨を一括印刷できる機能をつけるか、あるならば、分かりやすくしてください。
※	そもそも使う気にならなかった。
※	実際に利用しなかったのだから分かりませんでした。ただ、慣れれば非常に使いやすいような気はしました。
※	iPadでアプリが機能しなかった。会場内でWiFiが繋がらず、iPad-Wifiではwebにアクセスできなかった。
※	ポスター会場以外でネットが使えなかったため、マイスケジュール機能が十分に使えず、非常に不便だった。
※	使っていない
※	会場によっては電波が悪すぎて使い物にならない場面があった。
※	参加していないのでわかりません。
※	ITシステムは便利だが、発表者との個人的な連絡を公的にサポートするのは慎重になった方がよいかと思います。最近の傾向を、学会公認の合コンシステムが広がってきたとして喜ぶ人もいますが、気持ち悪がっている人もいます。やはり、特にポスター発表は、しっかりと顔と顔を合わせてしっかりと話をするというのが基本かと思います。

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて（その他）

回答者 番号	記述
※	WEBシステムも使いたかったが、口頭発表の会場ではLANが繋がらなかったため、オフラインで閲覧できるものでの使用になってしまった。通常はWimaxでの通信をしているが、口頭発表の会場のほとんどはWimaxが繋がらず、事前にホテルや移動中に新着情報をダウンロードしておき、ポスター会場でまた同期をする、という形となっていた。WEBシステムは便利なので使用したい。
※	あらかじめpdfファイルを落として、PCで検索
※	90%アプリ、10%WEB
※	参加していないので分かりません。
※	ネットの繋がりが悪く使いませんでした。
※	会期前と終了後にしか使っておらず、当日はまったく利用しなかった。
※	タブレット端末でアプリを使用
※	会場でWi-Fiが機能しない時間が多くスマホ(LTE)でデザリングせざるを得なかった。
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	不参加のため、システムの利用自体をしませんでした。
※	参加していないので分かりません。
※	無線ランがポスター会場のみであったので、オフラインでのみしか使えなかったのが大変不便

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	そもそもシンポジウムの議題は誰が考えたのか？アンケート等を事前にとって、それを元に企画されるべきではないか？学会運営の透明性を全く感じる事ができず、残念である。
※	もう少し生化学分野のシンポがほしい
※	分子生物学会の色が濃かったように感じた
※	会員にあらかじめ連絡が来て、公募したとは思いますが、かなりマイナーと思われるテーマであって参加者も少ない会場が多く、他方でジェネラルなテーマで参加者も多かったのに会場が小さすぎて聴衆があふれていて参加すらできなかったところもありました。ワークショップもそうですが、この辺りのバランスは実に予想困難ですね。ご苦労様でした。
※	せっかく両学会が共催しているのだから、いろいろなアプローチはあったけれども、もっと先を見据えた科学的なテーマをふたつみつ(かたよっていても可)を大々的にやってみてほしい(はずれてしまうと辛いかも、ですが、興味という点で集客できるのでは？)。
※	全く成果の出ていないシンポジウムが多すぎる。海外からのレベルの低い招待は経費の無駄。幕の内弁当よりも成果の出ている一品料理の時代である。
※	可能なら微生物関連のテーマも設定して欲しい。
※	偏っていても良い。
※	今回は自分の分野に近い発表がワークショップと一般演題ばかりだったので、シンポジウムには全く参加しませんでした。
※	偏っているが、それは年会毎の特徴ととらえている
※	プレナリーレクチャー・パイオニアズレクチャーは特に必要だとは思いませんでした。そのポスターの時間を増やしたほうが良いと思います。DNA複製、組換え、修復関連のシンポジウムがなかったのは残念でした。
※	プレナリーレクチャーの演者が最新の結果を発表するのは良いことだとは思いますが、その分野の細部に焦点をあてすぎたので分野外の人にはあまり重要性や新規性が伝わらなかった。
※	若い世代がもっと参加できるような内容にすべき。どうも、学会員の上層部の趣味趣向が強い気がする。
※	いつも同じメンバーでWSやシンポジウムを開いている
※	(今回ではないが)過去の個別開催の折に、複数の同時期開催学会で、同じ内容のシンポジウムを実行されたオーガナイザーが居られたが論外だと思う。
※	研究者の人となりに注目するなら、テーマが偏っていても良いですが、内容をその様にして戴ければ、若い人も興味を持つと思います。研究内容に重点を置くのであれば、私の関連分野は重要視されていない、と思う人が多くでないような配慮が欲しいです。
※	改善点は示せないが、このままでは良くない気がします。
※	捏造問題フォーラムの時間が短すぎる
※	明らかに生化学会より
※	他の講演と重なっていたためあまり聞けなかった。重ならないようにして欲しい。
※	オーガナイザーの人選が不適切と感ぜられるシンポジウムが散見した
※	特別講演は印象に残らなかった。シンポジウムはとても良かったが、さすがに数が多すぎた。2割ほど減らして質を上げてほしいのではないかと。
※	もともとテーマの適切性という質問は意味がないのでは？開催時間が問題で、昼の時間をとったためにポスターの開始時間が遅れるなど影響はあったと思う。
※	なぜ人間本位のテーマに偏るのか。生物は人間だけではない。
※	不参加のため、あまり内容を把握していないのですが、参加者の話を聞くと、面白そうなテーマだったような気がします。
※	色々な意味で閉塞感のある現在では、過去の成功者による特別講演は虚しいだけだと感じた。
※	医学系が多いように思います。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	海外を増やすなら、国際学会に昇格させるべき。
※	1日だけの参加で時間が無かったので、シンポジウムは聞けなかった。そのため評価できない。
※	特別講演は昼に行って欲しい
※	テーマの偏りについては分かりませんが、現在盛んな、あるいはこれから盛んになるであろうテーマを本学会が選んでいるのだろうな、と解釈しています。
※	日本人発表者の英語が分かりにくかったし、口癖のような文言が耳に残って、あまり良い印象が残らなかった。無理をせずに日本語できちりと話していただくオプションも用意してはどうか。ノーベル物理学賞を受賞された益川教授は受賞記念講演を堂々と日本語で行って拍手喝采を受けておられました。
※	WSとの分野の重なりを考えてプログラムを組んでいただきましたかった。
※	日本語の発表にして欲しい
※	海外からのレベルの低い招待は経費の無駄。
※	シンポジウムやワークショップは類似したテーマが同じ時間帯に重なっていてどちらも聞きたいのにと残念だったこともしばしばあったように思う。
※	参加していないので分かりません。
※	もっと少なくとも良い
※	海外からのシンポジストの数を増やすのには賛成だが、学会の運営費との兼ね合いだと思うので、例えば近くのアジア諸国で新規分野を開拓して若手研究者を中心に招待を増やせば良いと思う。
※	参加していないし聴いていないのでわからないというのが答えだが、そもそも聞いてみようという気が起こりにくいシンポジストでした。
※	2つのシンポジウムで外国人1人だった。予算を考えるとやむを得ない。
※	シンポジストも参加者も増やして、英語のセッションが聴衆も含めて日本人だけ、ということが無くなればいいです。
※	お金があれば、海外から招待したらいいし、近隣諸国から来てくれるようなものを目指したいですね。
※	パイオニアズレクチャーが良かった
※	パイオニアズレクチャーは基本的に要らない。その時間枠や経費は、一般会員の口頭発表枠に少しでも使うべき。海外から素晴らしいシンポジストが多数参加されたようだが、プレナリーレクチャーとして、並行するセッションなしにして、基本的に全員が聞いてもよいくらいの方がおられた(業績的にも、幅広いバックグラウンドの聴衆を意識した講演ができる点でも)。最も大きい会場で、並行セッションなしで、2名の方に続けてプレナリーレクチャーをしてもらうのはよいのかも。その場合、他の会場で中継すれば、多数の参加者が聞く事ができる。これに値する講演者を招聘できない場合には、プレナリーレクチャーはやめる。
※	日本の学会とアメリカの学会では、主流の研究の傾向が違うので、グローバル化の世の中なので、その辺を加味した研究紹介もあって良いかもしれない。
※	英語化していることを考えるとやや少なかった気がします。
※	年寄りの自慢話はいらない。
※	海外からあえて(予算をかけて)呼んだことの目的・ビジョンを感じられなかった
※	聞いていないので。
※	同じ時間によく似たテーマが重なっていることが多かったかと思います。すべての分野の希望を聞くのは無理だと思いますが、できるだけテーマの近いセッションは(シンポジウム、ワークショップ、一般口演を含めて)時間をずらしてほしいです。

質問9. ワークショップについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	テーマが多すぎる
※	会場が狭すぎて、入れない人が多かった。どの会場もスクリーンが見にくかった。座高を高くしなければみえない。
※	参加人数が多いので仕方ないところもあるが、テーマが多すぎるし、一部はかぶっている。若い人のオーガナイザーも良いが中堅以上にしたいほうが、まずまずの演者が集まる気がする。
※	適切であるかどうかはともかくとして、同じ時間帯に聞きたい講演が複数あり、中には片方しか聞けなかった場合があります。
※	セッション数をもう少し減らしても良かった
※	いつも「生命の起源」の会場が狭過ぎる。人気テーマなので、もっと広い会場にすべき。
※	ワークショップのセッション数が多すぎる。毎年同じ人物が主催するような形骸化したものは除去すべきであると考えている。似たようなワークショップを同じ時間帯で並列で開催している例も多々見受けられた。改善を望む（例：12/3の3W5と3W22。アミノ酸系を同じ時間帯で開催して何の意味があるのか理解に苦しむ）。
※	細分化しないようにもう少し数を減らせると良い
※	わざわざ聞きに行きたいほどのものがない。
※	最近、応用研究の割合が高くなってきた。基礎研究をもう少し増やすべきでは？
※	一般からも募集した方が質が上がると思います。
※	立ち見が多く、会場の規模が小さすぎるところがあった。
※	同じような内容が多いのでもう少し内容を精査して欲しい。同じ内容を別のセッションで話しているようなことがあった。
※	類似のものが、同じ枠に重なることが多くあった。
※	興味のあるものがある日とない日の偏りがある。会場を移動してしまうと、会場があふれてしまって入ることもできなかった。興味のある話の日に会場を移動できなかった。
※	同時進行の数が多すぎて、興味のあるセッションに参加できなかった。
※	少し重なりが多かったように思います。
※	テーマの偏り、重複が多い気がする。議論すべきワークショップがなければ、学会側から提示すべきだと思う。学会の牽引力、主体性も欲しい
※	世の中の流行廃りで発表テーマが偏るのは仕方ないが、流行らない仕事のワークショップももう少し増やすなり目立たせるなりしてもよいと思った。
※	もっとワークショップを増やすべき
※	会場が狭かった！
※	かなりマイナーと思われるテーマであって参加者も少ない会場が多く、他方でジェネラルなテーマで参加者も多かったのに会場が小さすぎて聴衆があふれていて参加すらできなかったところもありました。
※	以前は行っていましたが、一般演題からの採択も行ってほしかった。
※	似た分野のセッション（シンポジウムも含めて）が同じ時間帯に行われていることが複数回あった。
※	多すぎる 会場がいっぱいで入りきれないところがあった 国際会議場の部屋は長すぎて後ろからでは見えない。モニター設置などの施設の改善が必要。
※	会場によって人が溢れる／空席が目立つなどあり、演題のテーマがトレンドに則って無いように思えました。
※	セッション数を削るべき。
※	シンポジウムと併せて数も多すぎるし乱立している印象。来る者は拒まない企画ではなく、学会としてある程度選別する時期に来ていると思う。参加する聴衆の立場では、学術的な中身を選択し足を運ぶので、シンポとWSの枠組みは関係ない。
※	会場が一杯で入れないセッションがあった。
※	テーマが細分化され過ぎていると感じました。
※	自由にやりたい人ができる環境が重要で、評価する。
※	同じ分野に偏っている。仲間内で発表する機会を得るために企画しているように見える。
※	一般演題からワークショップへの採用がなかったことが残念でした
※	生化学との合同の時はいつも思うが、テーマが偏っている。
※	近い分野のワークショップは同時時間帯に配置しない配慮が不十分だった
※	スライド映写位置が低かったりスライドサイズが会場規模に見合わないほどに小さい会場があり、縦長の会場では後方から見づらかった。ワークショップの数が多。オーガナイザーの業績との関連もあるので政治的には減らすことはできないのかもしれないが、類似ものがあったり細分化しすぎているものもあり、全体として聴衆を考えた設定になっていないように思う。
※	参加していないので分かりません。
※	テーマやオーガナイザーが例年、類似しており、自分の研究分野に関連するものはほとんどない。今年も年會に参加したいと思えなかった。
※	とてもオモシロイワークショップがあり、座長たちの企画が成功したと言える。会場を広くしてもらいたかった。
※	午前にあったり、午後にあったり、わけが分からない
※	今回も幾つかのセッションで会場に入りきれないほどの立ち見が出た。各会場のおよその参加者数を把握し、次回以降同様のテーマの会場（規模）の割り当ての参考にすることはできないか。例：宇宙からの生命の起源、のようなテーマはいつも混雑するが、割り当て会場が小さい。
※	近い分野のワークショップができるだけ同じ時間に開催されないようにプログラムを組んでいただけるとありがたいです。時間がかぶった場合には近い会場を割り当てていただきたいと思います。
※	興味のあるテーマの時間帯が被っている場合が多い
※	特別講演の時間帯設定に問題がある。通常の枠内で行うとよいのではないか。
※	指定演者だけでなく、応募による採択があっても良いと思う
※	数が多く、重複の是正が必要。
※	少し多すぎるかもしれませんが。興味がある内容が同時に開催されているという経験したので。しかしこれ以上削るのは、現実問題としては難しいのかもしれませんが。



質問9. ワークショップについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	あまりにも多すぎる。同時進行になりすぎ。もっと絞るべきだと思う。
※	いつも同じだが、狭い会場は人が入りきれずにあふれており、聞きたくても聞けないセッションが多かった
※	セッション数が多すぎた。被っているテーマも多かった。
※	数の問題になるかわかりませんが、比較的小さい会場の場合、人があふれて中に入れないものがいくつかありました。合同の学会で参加数も多く、いつも以上にそのような状況が増えたような印象です。小さい部屋の場合、部屋の外でも聞くことができるようにすべきかと思えます。
※	多くの会場が定員オーバーで狭かった。がこれは仕方ないですね。。
※	興味のあるシンポ、セッションがごとごとくは2日目午前に集中した
※	テーマ・セッション数ともに適切な範囲であると思うが、英語開催が少なかったのが気になった。
※	聞きたいワークショップは大抵重なる
※	類似のセッションが並行して開催されたため聞きたい発表を聞く事が出来なかった
※	多数のワークショップが同時進行で開催される形式が必ずしも良いと思わない。プログラムを簡素化し、学術年会としての内容を選抜・精査すべきではないか。
※	特に聞きたいテーマが少なかったように感じるが、それは個人の興味の違いなのかもしれない。
※	参加したいセッションが同じ時間帯に重なってしまうのが悩み。また、移動距離が長いことも辛い。だが、仕方ない気もする。
※	類似のWSが多い
※	自分にとっての新しい発展分野の情報(クロマチン関係と脂質構造)が得られて良かった。
※	構造生物学、iPS細胞、ゲノム編集など、最新かつ興味をもつ人が多いテクノロジーを、聴衆が各々の実際の研究に直接参考になるような、practicalな演題を集めたワークショップを希望する。
※	セッション数はめいっばいだと思いますが、同じ分野で複数あったり、少ない分野があったり、しているのは事実です。分子生物でくられれば、あまねく分野に差は付けない、というポリシーがあったような、、分野によって参加会員の多少が有り、人数の少ない分野でワークショップがたえられるのか、というのはあるでしょうが、絶滅危惧種にはして下さらないようにお願いします。
※	テーマが偏りすぎ
※	数が多すぎて同時刻に複数興味のあるものが出やすいので 期間を延長してもいいのであまり散在しないほうがいい
※	ワークショップのタイトルから、内容を想像しにくい。オーガナイザーはミステリアスな名称で聴衆を惹き付けたいのと思うが、参加者には不親切。
※	この学会はもはや必要ない
※	出席者が殺到し部屋の中にさえ入れず声も聞こえない会場があったが、何も対処されなかった。テーマも偏りがある。
※	適応拡大のワークショップに参加した。それぞれの講演時間はよいが、講演者が少なく、物足りない印象だった。
※	植物、植物-微生物相互作用が不足
※	多過ぎる。利用可能な会場数をかき集めて上限とするのは、大会のクオリティーや経理の点でよくない。合同学会にせよ、単独にせよ、大会長の判断でセッションの応募規程を決めてよい。たとえば、講演者には必ず大学院生あるいは非常勤の研究者を含めるとか。
※	会場により、人があふれ中にも入ることができない場合が、多かった。興味を持っているテーマ・セッションなどあらかじめ登録することで、適切な会場の大きさを割り当てるようにしてほしい。
※	セッション数が多すぎると思いました。また、ワークショップの発表に「公募枠」を設けても良いように思いました。
※	分野間の偏りがひどい。あまりにもマイナーなものまで採択しすぎ。
※	途中からだ人であらうで入れない会場が多かった。一つの会場で聞きたい演題は限られているので、初めから終わりまでずっとという訳にもいかない。会場の広さ、動線などを工夫することで解決できないでしょうか。
※	毎度のことながら、重なっていると同時に聞けないのが悲しいですね。
※	すこし内容がダブっているものも見受けられる。
※	スライドの下の部分が、前の人の頭に隠れて見にくかった。会場のサイズによらず、プロジェクターは大きいものにして欲しい。あるいは、投射する位置を検討して頂けると有難いです。
※	テーマはとても良かったが、さすがに数が多すぎたと思われる。2割ほど減らして質を上げてもいいのではないかと。
※	新学術領域のグループ発表の場になっている。
※	セッション名などで大風呂敷を広げるのはやめませんか。みっともないのもっと謙虚な表現にして欲しいと思います。内容がずっとエキサイティングなものもありましたけど・
※	数が多すぎた。生化との合同大会はやめてほしい。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	立ち見または会場に入れないセッションが多々あった。人が集まりそうなセッションはもう少し広い会場で行って欲しかった。
※	最終日の軽食の告知を見落とし、会場外で食事をしたため、口頭発表をあまり聞けなかったのは失敗だった。
※	学生が発表しているポスターでは、縁者自身がその内容をよく理解していないのか、勉強不足なのか、作戦なのか、質問してもまともな答えが返ってこない者もかなり見受けられた。せつかく時間を割いて学会に参加しているのに残念なことだった。演題を出す以上は教官側には学生が縁者の場合に指導教官も傍らに待機するような配慮が欲しいものである。
※	同じ研究グループから複数選ぶ前に、各研究グループにまんべんなく機会をあたえるべき。会費払ってるし、年会の意義はそこにある。
※	時間が短いということはないと思います。前半後半で、前半だったのもう少し長くてもよいと思いましたが、長くした場合に、後半に当たってしまうと、もう少し早く終わった方がよいと思ったと思います。75分ずつでもよいのではないかと思います。
※	ポスター発表がない日の一般口頭発表は聞けな気がしない。
※	最終日の午後の口演は人がいない。遅くても、最終日は午前中に終わらせるべき。シンポやワークは午後でもよい。
※	レイトブレッキングがあって良かった
※	神経科学関係の会場をもっと広くして欲しい
※	テーマが重なるプログラムの時間が重なることがしばしばあり、困りました。
※	ポスターの時間帯をもう少し早くしてもらえないかと思った。子供の保育園のお迎えに間に合わないの、途中で帰ることになってしまった。
※	会場がせますぎた
※	もう少し早い時間帯のポスターセッションを希望します。遅くとも18時までには終わることを希望致します。
※	本学会に限らず毎回思うことですが、ポスター訪問のマナー(もっと言えば質疑)を良くするような啓発が必要だと思います。一人の人がずっとポスター発表者に質問し続け(発表者にも意識が必要ですが)他の訪問者が近づけない、知り合いで集まり雑談をする、といった光景がありました。質疑も時間制限を考えないで、遅れが生じて後のプログラムに影響するということもありました。熱心でよいのですが、もう少し意識を持っていただければと思います。
※	口頭発表希望の人が、連番登録できないシステムはやめてほしい。
※	口頭発表のあとにポスター展示にした方がよいと思う。見に行くポスターの絞込みができるし、口頭発表で質問できなかった場合や、口頭発表が重なった場合、発表の遅延等で聞く予定のものが聞けなかった場合でも対応が容易になる。ポスターセッションの時間は演題数によるが、今回の規模だと、もっと長いほうがよく、演題数が少なければ、短い方がよい。
※	予算上出張日が限られるので同じ分野は日程をまとめてほしい
※	ポスターセッションの討論の時間帯がもう少し早い時間帯(例えば、15:45から17:45)の方が良い。
※	研究室から複数のポスター演題を登録する際に、ポスター番号が連続となることを希望する欄が欲しい
※	あまりにひどかった
※	演題数が多かったので、3交代制でもよかったのではないのでしょうか。
※	口頭発表→ポスターの順に統一すべき。
※	類似のWSがが、同じ枠に重なることが多くあった。
※	一般口頭発表への採択は、そのセッションのオーガナイザーの関係者に偏っていたように思いました。
※	ポスター会場が広いので1時間ではせいぜい3つしか見られません。
※	神戸商工会議所は他の会場と離れていて場所がわかりにくかった。メイン会場と神戸商工会議所間の案内板はもっと数を増やしたほうが良い。
※	ポスターの貼り付け時間を徹底してほしい。正午になってもポスターが貼り付けられていなかったものはいくつか見られた。また、演題取り消しがなされていたポスターも多いように感じた。
※	口演が少ない。重複したワークショップを減らして、口演を増やしても良いと思う。
※	合同開催の場合ポスター数が増えます。単位時間あたりに閲覧(ディスカッション)可能な枚数を考慮して、3部制にする等の工夫が合ってよいと思います。
※	口頭発表は、どこかのワークショップに組み入れるべきである。トピック混ぜこぜの口頭発表会場には、それぞれの関係者しか集まらない。
※	ポスターのあとにTalkを行うのはやめるべきである。
※	自分の発表時間と同じ時間帯に発表しているポスターを聞きにいけな。この点を改善してほしい。
※	どのような演題が一般口頭発表に採択されるかについて、予め方針を示して欲しかった。
※	ポスターからの口頭発表への採択の基準がまちまちで不公平にすら思えた。ユニークでオリジナリティーのある研究がなおざりにされていた観があります。有名研究室の同様の演題、別の大学院生が発表をするのでしようが、は、すべからくポスターでも良いのでは。
※	Q9でも記載しましたが、一般演題からシンポジウム・ワークショップへの採択も行ってほしかった。また、会場の都合もあるかとは思いますが、一般口頭発表の会場が僻地に追いやられている印象があった(場所が分かりにくかった)。
※	会場によって人が溢れる/空席が目立つなどあり、演題のテーマがトレンドに則って無いように思えました。四日目の口頭発表が、三日目にポスター発表されており、口頭発表の意義が無い感じでした。最終日にしても、口頭発表を終えたあとにポスター発表でフォローする流れにして欲しいです。
※	ポスターは、似たような内容を一日にまとめてほしい。
※	日程が過密、移動に時間がかかり、展示を見る時間があまりとれなかった。シンポジウム、WSの時間を短縮しては?
※	ポスターについても、中身を選別する必要があると思う。
※	一般口頭とワークショップが被っており、一般口頭の意義が薄い。ワークショップに応募して採択されるシステムの方が良い。
※	神戸ではポスター会場が分散するので少々面倒。それともそのほうが好評なのかしら?
※	口頭発表に採択された時はポスター発表は免除して頂きたいです。
※	口頭発表とポスター発表は同一日に行うか、または口頭発表終了後にポスター発表時間を設定すべきではないか。

質問10. 一般演題について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	自分の一般口頭発表と、同じ分野のワークショップの時間が重なっており、不満を感じた。多くの一般口頭は最終日の昼だったが、すでにポスターを見ているためわざわざ発表を聞きに行く必要を感じなかったため日程の変更は必須かと思う。
※	「疾患生物学」という言葉に違和感がある。
※	ポスター発表が終わるのが18時45分というのは、他の学会に比べて遅いような気がした。ポータルライナーの混雑も重なって、三宮に着くのが8時を過ぎてしまった。
※	シンポやワークショップと一般口頭発表が重ならないほうが良いと思った。
※	ポスターから口頭への採択に関して、セッションごとの採択率がどこかでわかるとありがたい。
※	最終日もポスターがあった方がよい。(口頭よりポスターの方が討論が深まるので、参加しがいがある。)
※	参加していないので分かりません。
※	朝がもったいない
※	もう少しポスターからの口頭を増やしても良いのではと思います。
※	一般口頭発表とシンポジウム・ワークショップが同時時間帯に開催された場合、自分の場合はシンポ・ワークショップの方を選ぶ傾向にあった。時間帯を分けたほうがよいのではないか。
※	最終日の時間設定で次のワークショップとの間の時間が15分しか無いのは、準備等に支障があった。
※	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムはよかったが、発表時間があまりにも短すぎる。8分ではなく10分は欲しい。
※	ポスターかオーラルどちらか一つでいい。
※	毎年ですが、ポスターを掲示する時間が早すぎます。前の日から会場近くに宿泊する必要があるため、できれば昼頃までに掲示すれば良いようにしていただきたいです。
※	ポスターセッションの時間がやや遅い
※	昼過ぎまで掲示されないポスターが多く、空き時間に見ることができない。むしろ掲示時間を10時や11時までと遅くし、ポスターセッションを午後の早めの時間に置けば、確実に掲示してもらえ地方から当日参加や当日帰宅もできる。ポスター無断撮影が多過ぎ、教員レベルが堂々と行っており問題である。一般講演に口頭発表をおくなら、ポスターかどちらかを選ぶようにする方がよい。また、本学会は学生発表練習の場ではないのだから、若手発表賞は別に行うなどして、本発表のレベルを保って欲しい。例えば、口頭発表はその研究に関して議論できる人を研究室の責任で選んで登録して欲しい。
※	口頭発表がワークショップと混在していてさっぱり訳が分からなかった プログラムがビジーになりすぎるため、一般口頭発表が必要と思えない
※	最終日の昼時間帯の一般口頭発表は良くないと思う。
※	ポスター会場が複数あるのは、不便でした。
※	合同大会なので数が多すぎた。
※	一般口頭発表に採用されなかった理由を知りたい。査読委員にて厳正かつ慎重に選考した結果とあるなら、その理由を通知していただきたい。非常に不快な思いをした。
※	最終日の口頭発表、シンポは午後と連続して大変だった。
※	もっと長くてよいが、発表者の負担は少なく。たとえば、3の倍数とか4の倍数で分ける。2はしんどい。
※	奇数番号と偶数番号で不公平が生じる。もしあのようにするのであれば、もっと早い時間にしないと、偶数番号が始まる前に帰ってしまう人が多い。
※	4日目の口頭発表に選ばれた人は3日目にポスター発表をしており、意味のないものになっていました。会期を3日にして、口頭発表の後にポスター発表にすべきです。
※	ポスターの前の時間帯で一般口頭発表設定できるのではないか。
※	一般口頭発表と並行してシンポジウム、ワークショップを開催すべきでない
※	ポスター会場で、どの列がどのようなテーマについての発表なのか一目でわかるようなボードがあるとよいと思いました。
※	ポスターセッションの時間が短く、かつ4つの会場に分散しているため、興味のあるポスターを5個以上回るのは困難であった。その上、ポスターを午前中からきちんと掲示しているものが非常に少なく、学会に出席してもポスターを見ることができなかった。ポスター発表時間を3時間以上にすること、朝10時までには必ず掲示させるように徹底させてほしい。去年までは、これほどひどいことはなく、ほとんどのポスターは午前中に掲示されていたと思う。今年だけこれほどひどくなった理由はよく分からないのですが…。短時間で回りにくいので、ポスター会場は、企業展示ブースとわけてポスター会場だけでまとめてほしい。
※	口頭とポスター発表の両方が必要とは思わない。英語発表にしてほしい。
※	私のワークショップの講演者が、同時並行のワークショップのオーガナイザーでした。こういうのは事務局側で回避してもらいたいです。初歩的ミスだと思いますが。
※	近い分野のワークショップと一般演題が同じ時間帯に有り、講演を見逃すことが複数回あった。テーマによって時間をずらしてほしい。
※	一般口演の前にポスター発表があるのはよくなかった
※	ポスターの前後の並びがよくなかった。もう少し中身を吟味して欲しい。
※	日程の関係で難しいとは思いますが、限られたセッションでの話しですが、同じ分野の発表が表／裏で行われており、片方しか聞くことができませんでした。
※	大ホールでがらがらだったのは残念
※	ポスター貼り付けの間隔がもう少し広いとよい。口頭発表の場所が離れていると、移動時間的につらいので近い方がよい。
※	終了時間は1時間くらい早くが良い。LBAIに関して、はポスター会場に番号・題目・演者を記載した印刷物を置いてほしかった。
※	3日目までの昼前後に空き時間が多い。プレナリー／パイオニアレクチャーに興味がない人はどうすればよいのか？ランチセミナーは12時から始めるべき。



質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	聞きたいポスター発表がたくさんあって、一部しか聞くことができなくて残念でした。数が多いので、展示場所も複数となっており、主催者側としては難しい問題ですね。
※	ワークショップ、シンポジウムの日程と、関連分野をもっとひもづけして、同日開催にするなどの配慮をお願いします。
※	大御所の先生の所が沢山採用されていました。これで良いのですか？
※	同じ分野を何日にも振り分けることによって、同研究室からの発表がバラバラになり参加しにくかった。学生を連れて4泊は負担が大きい。
※	可能であれば、一般口頭発表後にポスターとなるようにスケジュールを組んで欲しかった。(3日目ポスター4日目口頭発表だったため)
※	この学会はもはや必要ない。
※	ポスターの作成の仕方のポスターコーナーを作ってはいかがでしょうか。
※	合同大会のため、参加者数が多かったせいだと思うが、4日目に押しやられすぎていたと思う。会期中、均等分配してほしい。
※	従来、4日間で振り分けていたポスターを、今回は3日間で振り分けたため、1日あたりの発表数が多く、フォローする時間が不足しました。発表者の負担を考えると、4日間に戻し、均等に振り分けるのが良いかと思います。
※	一般口頭発表の枠をもっと長くするか、一人の発表時間を延ばすかした方がよい。
※	1日あたりのポスターが多すぎると思った。日によってポスターの番号の場所が変わり、分かりにくかった。
※	ポスター会場が一方所であれば、分野が異なる領域の発表などを、のぞき見することができていいのではないかなとも思う。
※	ポスターの会場がもっと広いと良かった
※	ポスターセッションの時間が遅い。会場が4箇所になってしまったのは良くない。
※	6. ポスターからワークショップに採択される枠もあると一層良かった。
※	テーマの近いシンポジウムが同時並行で開催されており、フォローできなかった。できるだけ内容の近いシンポジウム/ワークショップは時間をずらしてほしい。
※	発表が学会の受賞講演などと重なると言ったどこに重きを置いているのか分からないプログラム編成
※	最終日もポスターがあった方が良いと思う。
※	ポスターを口頭で発表したもの多くは内容が薄かったので、わざわざ口頭発表を作る必要はない。その時間や会場を、ワークショップやシンポジウムに振り分けて、日数を短くする方がよい。内容が薄い学生や院生レベルの口頭発表は、支部例会などに回して欲しい。
※	合同だとどうしても聞きたいセッションが重なってしまう事があり、土曜日まで使う日程が良かったのではないかなと思う。
※	1日1000演題以上を1~2時間で回るのは不可能である。
※	できるだけ一般口頭発表の後にポスターが来るようにしてほしい。
※	偶数、奇数で2回に分割するとポスター担当の場合半分は見にいけないことになります。そこで4分割ぐらいにして担当時間を割り振ると興味あるポスターと自分の担当が重なることが少なくなると思います。その分、ポスターセッションの時間は長くしても良いと思います。
※	数年前から、一つの分野を数日に分けているが、元に戻してほしい。分散化されたことにより、他分野への興味その他により前向きな効果よりも、当該分野の活性化が阻害されることによるネガティブな効果の方が強いように感じられる。
※	ポスターの発表時間帯はもう少し早い時間帯にして欲しい。遠方から参加する場合には、ポスター発表終了後に帰ることができない。
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	ポスターセッションの時間をもう少し早めてほしい。
※	ポスターセッションの時間をもう少し早めて欲しい。帰りの時間がギリギリになるせいか、早めにポスターをはがしてしまう人もいる。
※	ポスター発表は最終日まであってもいいので、1日あたりの発表数をもう少し少な目にしてほしかった。ワークショップも聞いて、ポスターも見て・・・と時間が足りなかった。
※	口頭発表はポスター発表日にあるのがベストだと思います。
※	ポスターセッションの時間帯を考え直すべき。
※	こちらについても参加していないため、良く分からず。。。
※	日程の前半と後半で分野を変えてくれる方が集中して出れるのでうれしい。4日間全部を出席できない時は専門分野で聞けない発表が出てくる。それに出張の日数を少なくして済み旅費が助かる。
※	聴講者に対し狭すぎる部屋があった
※	場所に不公平感があるし、ポスターの数に対して、聴衆人数を考えているのだろうか疑問に思った。
※	ポスターセッションの時間がもう少し(1~2時間)早い方がよい。
※	ポスターからの一般口頭発表は、時間も短く議論が盛り上がるわけでもないのに、無駄・無意味だと思う。それぞれの分野のワークショップの世話人がポスター発表の中から数件ピックアップして、内容を吟味して個別に依頼してワークショップで取り上げるくらいの感じが良さそうに思います。
※	口頭発表の分野にまとまりがなく、会場にいる人は幾つかある演題の一つか二つを聞くために来場していた状態ではないだろうか。会場からの質問がほとんどなく、座長ばかりが質問しているように感じられた。
※	会期が4日間と長いので、ある程度単一の分野(例えば「疾患生物学」は2日目に集中のような)は1日にまとめて欲しい。
※	外国からの参加者を増やすためにはポスターは英語にしたほうが良いかもしれない。
※	近い領域のテーマが重複しているケースが例年以上に目立った。また、会場間の距離が遠いため、一部重複しているだけでも会場間の移動に時間がかかってしまい、興味のある講演のうち、半分は聴けなかった。

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	市民公開講座のパネルディスカッションが支離滅裂で残念だった。
※	ガチ議論など期間中のイブニングセッションの開催は歓迎する。
※	特別企画は全く意味がないと思う。会場代の無駄であると考える。
※	1日だけの参加だったので、特別企画に参加する時間がなかった。
※	創薬シンポジウムはアカデミアでは知ることのできない企業様の現状を知ることができてよかった。司会者の方も場を盛り上げるように努力をされていることは良く分かり、内容の理解の助けになった。しかし、今の講演の考え方を1方向に誘導しているように思われた。講演を聞いての質問はそれなりにあったが、誘導された方向性での質問は特になく、結局質問ができないままに終わってしまった。これが企業様での議論の進め方なのであろうと思い、それもまた勉強にはなった。ただ聴衆は学者であるという前提で、その習性を汲んだ司会というのもまた良かったのではないかと思った。
※	臨床医学研究者の特別公演
※	参加しませんでした。
※	薬学会ではないのに、創薬シンポがある理由がわからない。生化学や分子生物学に関する技術的、あるいは、総括的なシンポジウムにしてほしい。
※	他のイベントとの重複が多く、ほとんど参加できない
※	出なかったので内容にはコメントできないが、あまり遅い時間にやるのはどうかと思う。海外若手招聘は不要。
※	市民公開講座は関西勢で占められていたことが気になりました。
※	時間が遅すぎて参加しづらい。
※	高校生の発表参加。中学生と高校生を対象に、学生証の提示により、すべての企画に無料参加できるようにしてもよいと思います。
※	1〜7まで欠席してしまいました。申し訳ありません。
※	参加していないので分かりません。
※	ガチ議論やるのはいいが意見を反映させてほしい。
※	よかったわけではない。司会者が結論ありきで進行していた
※	研究倫理フォーラムに参加したが、ディスカッションの焦点が絞り切れておらず、大事なポイントへの時間配分が足りなかったような印象を受けた。進行に改善の余地がかなりあったと思う。
※	海外若手研究者招聘企画(旅費補助)とか必要ないでしょうか？意図が不明
※	どれも参加しなかったので評価なし
※	聞きたい企画がほかにもあったが、ポスターセッション終了後では遅すぎる。もっと早い時間帯(昼とか)に企画を入れられないか？
※	行きたいのですが、なんだか時間が合わないことが多いので、今年も行くことができませんでした。企業との関わりのフォーラムが有っても良いかも。かつて、ファンディングの立場の方の発表があったけど、そういうのでなく、もっと身近に企業とインタラクトできるようなモノを希望。
※	ガチ議論をウェブ配信で自宅から見ていました。なかなかポスターセッション後に学会にでる人は少ないので、できれば、このような重要な企画は、夜に行うのではなく、日中に行ってほしい。
※	可能であれば、市民公開講座をオンライン観覧ができるようにしてもらいたい。今の時代を考えると、そういう事があってもよいのではないのでしょうか。
※	心惹かれる企画がなかった。
※	不参加でした。
※	ガチ議論について。元々そういうコンセプトであるようにも感じられるが、飲み屋の会話で終わりにするのではなく内容をまとめて行動することをしたい。わがままな話ではあるが上の先生方には頑張ってもらいたい。
※	市民公開講座では、一部の演者が一般市民を意識した発表ではなかったため、とても理解できなかったと思います。実際、市民らしき参加者は少ないようだったので、そう割り切った発表だったのかもかもしれませんが、そうなると公開講座をやる意味があるのか疑問です。
※	ガチ議論は定例化してください
※	利用者が本当に感謝していた。
※	参加しなかった(参加しようと思ったものがなかった)
※	時間を遅くに設定するのは良くないと思った
※	1) 昨年、海外若手研究者招聘企画にお世話になりました。それがきっかけとなり、コラボレーションが生まれたり、今年のワークショップに読んでいただいたりしました。海外から日本へ帰るきっかけを作るのは簡単なことではありません。この企画の存続を強く希望します。2) 昨年のような、「求職中」といったタグの復活を希望します。学会が仕事探しの場として機能しやすい環境を整備していただければ、ポスドク、PIともに利益を得ることができるのではないのでしょうか。
※	研究倫理フォーラムでは、もう少し進行を考えて進めて欲しかったです。司会者はできるだけ学会の主な方々のことを予習しておいていただければ、もっと進行がスムーズだったのではないのでしょうか？
※	「ガチ議論」は、エキサイティングで良かったです。ただ、アカデミア以外からの出演者が、文科省の2名のみであったのは残念でした。強烈的なカウンターパンチもなかったですし、議論内容も、一昨年に比較して「おとなしく」まとまってしまった気がします。すぐに答えが得られるような問題でもないですし、このような議論の場を、継続的に設けてほしいと考えます。
※	参加していないので分かりません。
※	都合が合わず参加していない
※	特別企画に参加できなかったため、その様子や内容をインターネット等で公開して欲しい。
※	特別企画には参加しなかった。
※	行けなかった
※	ガチ討論はホテルの部屋にてネット中継で視聴したが素晴らしい企画だった。企画された先生方には敬意を表したい。
※	研究倫理フォーラムもテーマは良かったが、オーガナイザーの準備不足が目立った。フロアからのコメントが一番良かった。
※	ガチ議論は、無駄な企画。ガス抜きにもならない。我々の学会費を木っ端役人を雇う費用に使わないでほしい。

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	実際に参加できていないので良くわかりません。
※	ガチ議論が全くガチ議論ではなかった。のらりくらりと話題をそらしてはぐらかす官僚に、パネラーがまともに突っ込まないなら無意味な企画。もう二度とやらない方がいい。
※	参加しなかった

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	企業展示の会場が多く、離れている。2箇所くらいが良い。ポスターも同じことが言える。
※	会場が複数箇所あり、一度に回ることができず、大変不便であった。会場配置のセンスを疑う。
※	数が少なく、事前予約できなかった。当日は長蛇の列を並ばなければいけなかった。
※	企業数が少なかった。
※	ランチョン形式でない、事前登録型（一部当日参加を可能として）のバイオテクノロジーセミナーを設けて欲しいです。また、ランチョン形式は抽選式で原則事前登録のみとし（定員に満たない場合と当日欠員が出た場合は柔軟に対処）、（選に漏れた人の人数は把握できるので）非ランチョン形式のセミナーを、この場合にも活用することも一つの方法と思います。
※	今回は企業展示場が3か所？に分離していたため、できれば一か所の方がよかった。
※	出展ブースに知り合いがいるあるいは具体的に聞きたいことがある場合は出展ブースに話を聞きにいきやすいが、特に用事がないと展示ブースを見に行くことはない。要旨集に出展ブースにだす企業から、宣伝、アピール、イベント情報などを掲載してもらってはいかがでしょうか？それを読んで興味のあるブースに参加者が足を運ぶチャンスが増えると思います。
※	ランチョンセミナーのネット予約はもっと大きな負荷に耐えられるサーバーを用意できないのであれば、やめるべき。
※	可能であれば、展示会の会場を1つにまとめてほしい。
※	ランチョンセミナーの総席数が少なすぎます。事前予約は全く取れず、当日長時間並ぶ気にもなりません。
※	たぶん人気が薄くなって、頼まれたり、お付き合いでやっているところが多いのではないかと？商品も面白くないし、一昔前の熱意も感じられない。あるのは、モノ（景品）で顧客情報（個人情報）を集めるものばかり。
※	バイオテクノロジーセミナーに参加したかったが、Webでの登録がすぐにいっぱいとなり事前申込みができなかった。以前みたいに、当日の朝にチケット配布が良いと思う。企業展示会は特に問題ないと思う。
※	場所がわかれていて回りにくい。
※	展示が少ない
※	4ヶ所はややきつかったが、スタンプラリーはおもしろかった。
※	企業から見ても魅力的な年會になるよう、品質向上する年會になってほしい。
※	会場が分散していて分かりにくかったです。
※	セミナーの事前予約が短時間で閉め切れ、当日参加は1時間前から並ばなければならない状況。不愉快で、全く参加しなかった。
※	ランチョンセミナーが少ない日もあり、相変わらずの殺到ぶりでした。当日券も配布予定時間の前に配布が終わっていたりして混乱していたようです。数年前からこのような混雑が嫌でランチョンセミナーには参加していませんでしたが、今回の状況を見てますます参加しなくなりました。
※	参加していないので分かりません。
※	ランチョンの弁当の用意が少なすぎる。他学会のように、朝にランチョンの予約システムを導入してほしい。
※	もっと多く
※	企業の展示が減った感じがする
※	会場が分かれすぎ
※	仕方がない部分もあるが、複数会場に分かれていると回りにくく、一か所の会場にまとまっていたほうがよいと感じた。
※	企業展示会場とポスター会場を必ずセットにして4箇所に分散して展示させていたが、逆に見学しづらいと感じた。企業ブースはブースでまとめた方が、ポスターを見ない時間にまとめて見ることで、便利であり、企業を探しやすい。他の企業会場まで見に行くのは時間的に無駄が多い。
※	ポスター発表会場の前に企業展示会を置くのはとてもよかったと思う。バイオテクノロジーセミナーの事前予約は非常に評判悪かったので、止めるか、続けるのであればシステムの改変を望みます。
※	”運営費にも関わるのでアンケート調査を書いて下さい”と言ってアンケートを書いてもらっていた企業の方が居られたのが印象に残った。それほど学会の運営は大変な状況なのかと受け取った。正直で最も意見だと思うが、あまりそこは強調しない方がよいと思う。
※	不参加でした。
※	セミナーの予約が取れず残念 展示は最終日になかったのが想定外で行けずまいでした
※	企業ブースは会場を1か所にした方がよい。
※	少し分散しすぎていて疲れました。
※	バイオテクノロジーセミナーの数が少なかった。参加希望企業が減ったのでしょうか？
※	会場が分かれていたので全体を見るのが難しかった。
※	企業展示の会場が分散していて、わかりにくかった。
※	バイオテクノロジーセミナーは、朝から整理券を配布する仕組みが良いと思います。ネットで事前申込みをするのであれば、事前申込みの枚数などを明示すること、当日配布は朝から行うこと、事前申込みをしたかたが参加しなかった場合には、その日以降の事前申込みを無効にすることなどの対応が必要だと思います。
※	もっとあったら良いですが、これも金の問題か？
※	毎度のことだが、参加者の企業展示会へに関心が高くない。企業にいつか愛想をつかされて、大会が経済的に開催できなくなりかねない。一つの方策は、セッションの 카테고리 を減らし、ポスター会場／展示会場に人が集まるしかけをもうけること。容易ではないが。
※	会場は一カ所の方が、いい
※	もう少し展示を周知すべき
※	ランチョンセミナーにされると、興味の無い人がお弁当目当てに来ているだけで、本来情報を必要としている人が排除されてるので止めて欲しい。
※	ランチョンセミナーの事前予約制度はやめてほしい。事前予約開始日はまったくサイトに繋がらず、次の日には満員になっていた。聞きたいセミナーがあったにも関わらず、行く気をなくした。
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	参加した企業がわがどう感じているのかの調査も行うべき。



質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	参加出来なかった。
※	会場の空調がもう少し適切に管理されるとよかった。
※	展示は良かったが、ランチョンのバイオテクノロジーセミナーは、お弁当目的の人が多数並んでいて、入りにくかった。ランチョンの事前予約もあつという間に締め切られてしまい、予約できなかった。これでは事前予約制にしている意味が無い。
※	従来の参加方法の方がよかった。気が付くと、すべてのセッションが一杯で一つも参加できなかった。
※	バイオテクノロジーセミナーとはランチョンセミナーのことでしょうか。そうだとお答えします。内容は良かったと思います。ただ例年に比べてとても参加しにくかったです。先ず、WEBでの事前登録がアツという言う間にいっぱいになりました。当日参加をするためには、延々45分前から列に並ばねばなりません。次回の改善を望みます。
※	予約開始から1日もたたないうちにすべてのセミナーで予約が完了するとは、事前準備の数が少なすぎです。コンサートのチケット争奪戦でもあるまいし、どうなっているのだ全く！ 例年、朝一の講演にぎりぎりの時間に行っても、半数程度の会場には空きが有る。主催者は、読みの甘さを厳しく認識してもらいたい。

質問13. 「製薬・創薬面談ブース」について（その他）

回答者番号	その他記述
※	参加者等にどんなものなのか説明が欲しかった。何をするとところなのか、どのような人が対象なのか、ブースを訪れたらどのような利点があるのか、不明な部分が多かった。したがって、入りづらい印象を持った。
※	不要。応用に本学会が寄っていく必要はない。
※	どちらかというと研究者側からの要請というより、企業側の要請があったのではないかと感じましたので利用していません。
※	この質問を見るまで、このブースがあったこと自体知らなかった。会場が大き過ぎて、全てを把握することができない。個人的には関連がないブースだったので問題ないが。
※	もうすこし宣伝をしたり、入りやすい(相談等を含めて)状態にしないと、近寄りづらい印象をもちました。
※	利用していないので本質はわかりませんが「入りにくい」印象でした。
※	参加していないので分かりません。
※	利用方法がよくわからなかった。
※	どう関わったらよいかわからなかった
※	あまり使われていない気がした。相談者の秘密保持の目的もあるかと思うが、全面囲うのは阻害的に思えた。
※	すばらしい！ ぜひ今後も続けて欲しい。
※	不参加でした。
※	どことは言いませんが、担当者が不在で、ずっと閉まったままのブースがありました。
※	利用していないが、こういう企画には賛同する。
※	宣伝が足りない
※	気がつきませんでした。
※	製薬会社との協議方法について、もう少し簡便性、利便性を考えても良いのではないかと思った。
※	この学会は基礎に徹するべきではないのでしょうか？
※	利用していないが、よいと思う。
※	参加していないのでわかりません。
※	利用していないが、今後もつづけるとよいのでは。

## 質問14. 本大会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	会場が狭かった。
※	適切だが、ポスター会場が分散していたのは不便だった。
※	様々な分野があつてよかった
※	大きいとは思いますが、大きすぎるのかどうかは分かりません。これでも同業者全員が参集しているわけではないので、もう少し大きくてもよいのかもしれない。
※	大きすぎる。この規模でやるのならば期間を延ばすべきだし、12月は風邪の流行もあって寒いので時期も考慮すべき。
※	一つの研究室から似たような研究のポスターを沢山出している、「古臭い手法」が多く見受けられた。出展するポスターの質も問われるべきではないか？学会の場合は、学生の教育の場ではないと考える。無論良い研究であれば、学生でも発表すべきであると思うが。
※	少ないと思います。
※	多分野の人と交流が出来て良かったが、希望するポスターを見切ることが出来なかった。ここで書くことが適切かは分かりませんが、また、著作権の問題はありますが、期間を定めて、電子的にもポスターを閲覧可能にすると良いと思います。掲載は発表者の任意とし、会場に設営した場所のみで閲覧可能にすれば、著作権の問題も生じにくいのではないのでしょうか。ポスター発表の時間前から閲覧を可能とし、大会期間中閲覧が出来れば良いのですが、せめて発表日当日だけでもして頂けると有難いです。
※	合同はいいが会場間が遠すぎる
※	普段生化学会では聞くことのできない発表も聞くことができた反面、大きすぎたため、興味のあるセッションのバッティングが多かった面もあります。
※	会場および交通の便とのバランスがあまりに悪い。移動時のあまりの混雑に難儀した。
※	大きすぎるともいえるが、BMBは規模こそが存在意義。小さい研究会ならほかにもある。
※	大きすぎるとは思いますが、もうこういうものだと思ってしまうのも1つだと思います。
※	宿泊施設や会場の収容能力を考えると参加者は少々多めかもしれない。立ち見の会場がかなりあったことは収容能力的に過剰な参加者であったことを裏付ける反面、(座長からではなく)会場から多くの質問があるなど当該研究分野の熱気を感じられるプラスの効果があつたと思う。よって、総じて規模的にも成功であったと評価している。
※	大きすぎますが、時には合同開催行うのがよいと思います。
※	人が減った気がする
※	大きすぎますが、それが一堂に会することの意義もあるとおもいます。
※	大きすぎます。年に2回に分けても良いので、テーマを2、3に絞って別途に開催するほうが密な議論ができるのではないのでしょうか。旬な話題に、私を含めた参加者もかなり無意識に集まって、不必要に会場に人があふれるのは、議論が集中されませんし、学会としては決して好ましいものではないと思います。わからないから教えて、的な質問が多かったのには鼻白みました。
※	規模は大きいですが、数年おきに合同大会を実施する意義はあると考える。
※	適切とは思わないが、不可避。
※	大きい会ではあるが、年に1回くらいはこれくらいの規模のものがあつてよい。
※	大きいですが、仕方ないように思われる。
※	入りきらない会場があることが気になった。
※	専門家どうしのミーティングという観点では大きすぎるが、専門分野間の交流という観点では適正な規模であろう。
※	大きな学会ですが、さらに他の学会と一緒にやってもよい。学会数が多く、どうしても時間が取られるため、一括で行ってもらうとありがたい。
※	「適当な規模」よりはずっと大きいと思うが、普段接点の少ない分野の人と話ができてとても有意義だった。
※	毎回大きすぎると思うが仕方がないのかなと思うし学生の発表の練習になる。という意味ではレベルが下がる傾向があるのが否めない。
※	同窓会やたまにしか会えない共同研究者と会える良い機会にさせていただいています。
※	参加していないので分かりません。
※	他の学会も巻き込んでもっと大きくすべき
※	会場間の歩行距離が長すぎる。
※	大きすぎる。近場にホテルが取れない。
※	全てに参加することはできない規模だが、この規模に多くの分野の人があるまるからこそ、思わぬ視点の発表に接する機会が得られる。大変だが、この規模を維持してほしい。
※	生化学会と合同は勘弁して欲しいプログラム等が煩雑すぎ
※	ポートアイランドが会場の場合、この規模のイベントだと交通機関(特にポートライナー)の混雑がひどい。有料(ポートライナーと同程度なら)でも良いのでバスの増発や、開始時間を一般の通勤時間と少しずらすようなことはできないか。
※	満席だった。適宜、空き部屋をサテライト会場にして映像と音声だけでも流してほしい
※	規模が大きいのは良いが、それに伴って会場が複数にまたがり、移動に不便であったことは改善が必要に感じる。
※	大きいですが、大きいことと雑多なことに意義がある。
※	規模が大きくなるのは仕方が無い
※	トータルでの人数は多いと思うが、結局ある程度自分達の専門分野別に集合してワイワイやっている感じである。
※	大きすぎる気はします。合同開催であればこのスケールになってしまうのは不可避なのですが。生化学会と分子生物学会の連続開催(同じ会場で、2.5+2.5日みたいな)にするぐらいしかしてはならないような気がします(興味のある方だけ通して参加する)
※	年会以外にもう少し小さい、表題を限った学会を始めた方がよいとおもう。
※	参加者数が多いことはかまわないと思うが、シンポジウムやワークショップなどが多すぎて、同時進行になりすぎて、結局ほとんど情報収集ができず勉強にならない。シンポジウムやワークショップをもっと絞った方がよい。
※	合同の学会にすることに賛成ですが、参加者が増えた場合、それに見合った会場でおこなう必要があると思います。人があふれているワークショップが目立ちました。
※	小さくなってきた感じがする。

質問14. 本大会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	この会場なら適当 横浜だと狭い
※	もっと増やしても良い
※	小規模な学会と巨大会の役割は異なるので、分子生物学会あるいはBMBは巨大会に求められる役割をこなしていると思います。ただし巨大会の負の側面（得られる情報の薄さなど）も避けられません。
※	大きいけど致し方がない
※	大きな規模だと思いますが、企業展示などそれなりの楽しみ方を見つけています。
※	規模は適当だが、規模に比べてデスクワークスペースが不足していると感じた。（デスクワークスペースをこれ以上増やせないのならば規模をもっと縮小すべきである）
※	大きすぎるとは思います、なんか工夫が必要。
※	会場が分散して利用しにくかった
※	合同である以上、仕方がない。
※	専門分野に限られたシンポジウムなどもいいが、この様な、大規模で色々な分野が一度に集まる学会があってもいいと思う。
※	参加人数がそれぞれ多い2つの学会の大会を合同で行う理由がよく分からない。無駄に巨大になり、会場の移動も容易ではない。
※	演題数をもう少し絞って時間的・空間的な余裕をもたせられるとよいと思います。
※	大きすぎるが、かといって縮小する必要もない。
※	会員の総数と参加者の関係、そして非会員で参加した数を比較すべきだと思います。質問が不適切ではないでしょうか。
※	かなり大きな規模であるため、会場の移動に時間がかかったり、ポスターの数が多く、関連する分野の物だけでもまわりきれなかったりと課題が少なくない。しかし、少なくとも数年に一度は合同年会が開催されることを希望します。
※	少々大きすぎる感があるが、もう一日会期を延ばせばシンポジウム、ワークショップ、口頭発表、ポスターへの参加がしやすい状況となると思う。
※	参加者の数のわりには人が少ないように感じた。特にポスター会場。
※	参加者・発表者の研究分野に偏りがあるので、人数だけでは判断できません。神経科学領域は少なすぎる印象です。
※	相変わらず巨大。でもそれが特徴でもあり、お祭りのような巨大な学会が一概に悪いとは言えない。国内の研究者の交流・研究の活発さが象徴されていてよいともいえる。やはり課題は、同時に複数のセッションが聞けないこと。
※	大きすぎるが、聞きたいものを選ぶこともできる。
※	大きすぎるがやむおえない。
※	この規模で開催するなら、もう1日必要。
※	会場に人が座りきれず、溢れてしまっていたので、会場をもっと広くする等していただけると助かります。
※	大きすぎる。ポスターは、全員が二日間ずつ発表できるくらいが良いと思う。
※	大きいと思いますが、ある意味広く活発でよかったと思います。



質問15. 本年の開催形式(合同大会)について (その他)

回答者番号	その他記述
※	生化学会にしかないような分野と、遺伝子を主体とした分子生物学の話題をうまく分けた学会に分けたほうが良い。
※	少なくとも生化学会と分子生物学会の両方へ2回出席する必要があるため、合同の方が良い。
※	両学会が合同開催だけでなく合併する方が良いと思う
※	生化学会、分子生物学会は、合併するべきだ。派閥意識が邪魔しているのなら、日本の科学のためによくない。
※	何年かに一回は、合同でもよいが、それぞれの学会らしさは残した方がよい。
※	たまに合同でするくらいが良い。
※	良かったが、12月は大学的に忙しく(OSCIや博士発表、AMED研究費申請、成果報告)、9月、10月が個人的には望ましい。
※	プログラム編成が非常に悪く、メリットを感じられなかった。
※	ワークショップ等のテーマが豊富だったのは良かったのですが、ポスター発表の演題数が多過ぎて、十分見ることが出来なかったのも、そこら辺が改善(演題数を制限するあるいは討論時間を増やす等)できれば合同大会の意義があるものになってくるのではないかと感じました。
※	合同大会を行うことには賛成であるが、今回の会場は狭いのもう少し広い部屋の確保が必要である。また、神戸の場合は朝の混雑(ポータライナー)がひどすぎる。
※	自分の研究に関して言えば、分子生物学学会との合同開催には意義を感じられない。
※	上で述べた通りです。改善の余地がありますが、大きくしすぎるのがやはり一番の問題ですね。
※	学会による微妙な空気感の違いはあるが、多くの参加者、演題がかぶるので、合同で良いと思う。
※	大きすぎるくらいはあるが、いろいろな分野のことを聞けて良いこともある。合同にするなら日数を長くしてはどうか？
※	早く生化学会と分子生物学会に合併してほしい
※	規模が大きすぎて見逃した演題があった
※	大会の規模よりも中身を重視する方向に転換すべし。そのためには中身を評価する指標が必要。
※	それぞれ1つの大会参加者が多いところの合同開催はメリットよりデメリットが勝る。宿泊施設も不足していた。
※	私は分子生物学会所属だが、生化学会との合同大会であったおかげで、自分にとって手薄な分野、特にchemistry寄りの研究者の意見や助言が多く得られて、とても実のある学会だった。
※	随分前に参加した時に比べて、両学会のバランスが変化したようで、生化学会の良さをもっと活かせるなら、他の学会との合同開催を検討するのも一案かと思う。
※	参加していないので分かりません。
※	両方の学会員なので、会費支払いが無駄である。いっそのこと、合併したほうがよい。
※	よかったと思うが少し大きすぎて会場の移動だけで大変。仕方が無いのかもしれませんが。
※	何年かに一度は、よいかも。
※	合同じゃなくていい。
※	Q14と同じく、全てに参加することはできない規模だが、この規模に多くの分野の人があるからこそ、思わぬ視点の発表に接する機会が得られる。大変だが、この規模を維持してほしい。
※	分子生物学会の会員としては、生化学会との合同大会にしたメリットは感じられなかった。単に規模が大きくなり、かえって関心のある必要な情報が収集しにくくなったという印象。
※	基本的には毎回今回のような合同でやってほしい。両方参加できるメリットがある。
※	関係者の方は大変ご苦労様でした。面白い企画が多かったです。
※	似たpopulationなので、混じったことの意義がわかりにくい。
※	今後も合同か合併して欲しい。
※	大きすぎる気はします。合同開催であればこのスケールになってしまうのは不可避なのですが。生化学会と分子生物学会の連続開催(同じ会場で、2.5+2.5日みたいな)にするぐらいしかしてはならないような気がします(興味のある方だけ通して参加する)
※	ポスター会場など大きすぎてfollow仕切れない部分がある。交通手段が満員でアクセスが困難であった。
※	良かった。今後も大きな生命科学系の学会は年1つにしてほしい。
※	繰り返しになりますが、賛成ですが、会場の容量をやや超えており、その点に対する対処がなかったのが残念です。
※	合同開催支持します。
※	一方のみでは聞けない講演が聞けたが、会場が分散して利用しにくかった
※	学会にかかる総費用を圧縮できるのは良いが、規模が大きすぎて聞きたいセッションが重複していたり、場所が離れているのは改善してほしい。日数をもう一日延ばすことで余裕を持って開催できるのではないかと。
※	大きすぎたと思う。
※	分子生物学会は、ポスドクや大学院生にとってもっと発表のチャンスを与えていた学会ではなかったか。今回の合同学会は、その意味では真逆ではなかったか。
※	合同開催は賛成だが規模が大きすぎると思う。
※	両大会とも規模が大きいので、合同ではなく別々に行った方がよいと思う。
※	合同年会というより、2つの年会が入れ子になっているだけ
※	不参加のためノーコメント
※	行きたかった。。。。
※	4日間をフルに参加できる人はほとんどいないのではないかとと思う。分子生物学会単独で3日間の方が良いと思う。
※	分子生物も生化学も源流は同じである。にも拘らず、別々の学会として活動しているほうが不自然。分かれていることで無駄が生じているとしたら、統合する方が両学会員のためになる。

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	分子生物学会も生化学会もカバーしている分野はざっくりしているので、いっそのこと合併すればよい。
※	農芸化学系
※	細胞生物学会 発生生物学会 遺伝学会 たんぱく質科学学会 プロテオーム学会
※	発生学会、血管生物学会、ウイルス学会、生物工学会、がん学会、日本薬学会
※	12月開催であれば日本免疫学会。数百人くらいは生化学会員と重複しているのではないかと。免疫学の分子、原子レベルでの理解は今後も必要である。
※	数年に1回程度の合同大会でよいと思います。細胞生物学にも興味がありますので、そちらの学会との合同はいかがでしょうか。
※	日本細胞生物学会、日本バイオイメーjing学会
※	米国、Experimental Biologyのように、生化学、分子生物学、発生生物学、細胞生物学、解剖学などまぜて、好きなセッションに参加出来るのが良い
※	生理学会
※	日本薬学会や農芸化学会もいけるのではないかと
※	米国がASBMBに既になっていることから上記二学会の合同開催が第一義的に望まれる。しかし、現会員数から見ると分子生物学会の方が圧倒的に多いようなので、生化学会は同じような会員数の学会との合同開催を目指してもよいのかも。具体的には細胞生物学会、タンパク質科学学会というように守備範囲は多少違うもののお互いに勉強し合えるような学術的距離の学会が適切であろう。
※	日本癌学会、もしくは日本免疫学会
※	化学会の生態関連物質やバイオテクノロジーの部門
※	分子生物学会と生化学会と一緒にすべき、あるいは常に合同開催とするべきで、別個の開催は成果発表、旅費や時間の無駄である。
※	日本細胞生物学会
※	遺伝学会 人類遺伝学会 細胞生物学会 CellDeath学会
※	細胞生物学会、発生生物学会、生物物理学会
※	日本進化学会 日本細胞生物学会 日本肥満学会 日本栄養・食糧学会
※	免疫学会、生物工学会
※	いって、生物物理学会や遺伝学会などと大合同開催にしては？
※	免疫学会
※	細胞生物学会や発生学会、内分泌学会など内包されるものがありますが、研究者の多くが国の方針もあって応用面に目が行っていることを鑑みると、医学系の学会と組み合わせるのは利点が多いと思う。
※	合同開催はいろいろな話しが聞けるのはとても良いのですが、ヒトが多すぎて落ち着いた印象。
※	日本免疫学会(近年規模が参加者が減る傾向)。規模に大差がなく、互いの得意分野を活かせるような学会があれば、他学会との合同開催を考えてもいいのではないかと。
※	がん関連学会 JASIS
※	細胞生物学会、RNA学会、蛋白質科学学会、農芸化学学会
※	細胞生物学会、発生生物学会など。
※	大きすぎて、広すぎて見るので精いっぱいでした。もう少し小さい学会との合同ではダメですか？ 被ってる人が多いのでしょうか。
※	日本細胞生物学会、日本発生生物学会、日本免疫学会、日本神経科学学会など。ASBMBとの合同開催も希望します。
※	単独で十分すぎる規模があるので分生のみから見ると合同開催のメリットはないと思います。
※	農芸化学会。企業が多いです。
※	細胞生物学会、生物物理学会
※	異分野交流、思わぬシーズ発掘の可能性もあるので分子生物学会と生化学会の合同だけでなく、Q4で挙げた学会と積極的に合同開催してはいかがだろうか。
※	日本遺伝学会
※	3. 日本細胞生物学会 4. 日本発生生物学会 5. 日本癌学会 6. 日本神経科学学会 7. 日本植物生理学会 8. 日本免疫学会 9. 日本遺伝学会 10. 日本生物物理学会
※	日本免疫学会
※	別々にやっても、どちらかにしか参加できないので、金額を考えると分子生物学会にならざるを得ない。
※	単独開催なり合同開催なり、どちらかに統一して欲しい。必ず参加しているコア学会人達にとっては、開催形式がころころ変わっても良いかもしれないが、たまに参加する周辺学会人にとってはわかりにくい。
※	細胞生物学会 プロテオーム学会
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本プロテオーム学会
※	合同学会にするのが日本の生命科学のためとの考えなら、遺伝学会や細胞生物学会など、生化学会以外にも、合同学会を提案することがに必須。ただし、どの学会との合同にしても、若手会員(ポスドクや大学院生)に発表の機会を可能な限り与える方針を維持することが前提。若手会員にとって、分子生物学会で口頭発表することを目指してもらえないような、また口頭発表できてよかったと思ってもらえる大会であって欲しい。それが無理なら、合同開催はすべきではない。大会長のご苦労も増えるばかり。
※	が議論の時に生化学会と分子生物学会が統一してはどうかという点が議論されました。その時申し上げた私の意見は「多数の生命科学関連の学会が科学の進歩に応じて作られる事は必要であるが、米国のフェデレーション(FASEB)のように大小の26学会が合同大会(昔はAtrantic Cityで大きなConvention Hallで行いました)を開くのが最適である。学際的領域のシンポジウムもその際に極めて有用である。というものです。日本にも生物物理学会はじめ多くの学会があります。ぜひご一考ください。
※	2-3年に一度共同開催スキーするのが良いと思った

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者 番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	基礎生命科学分野の学会(日本免疫学会など) 日本病理学会
※	日本細胞生物学会、日本神経科学会、日本遺伝学会
※	日本細胞生物学会、日本免疫学会、日本癌学会、
※	細胞生物学会、発生生物学会
※	合同開催なら、生化学会以外にない。
※	これだけの大きな学会なので、基本的には単独開催が良い。しかし3年～5年に1回位は、適切なテーマ設定のもとで学会と合同という形もあると思う。発生生物学会、遺伝学会、人類遺伝学会など。
※	日本化学会。今回の発表を見聞きして、特に化学の知識が乏しい方が目立った。化学は生物の基本であるので、化学会(の一部)との連携は必要だ。
※	生物物理学会
※	日本細胞生物学会、日本癌学会、日本免疫学会、
※	応用研究が主体の生物学系の学会。生物に興味を持つ人が増えているような情報学系の学会。
※	基礎生物系とがん等、臨床系学会

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	分子生物学会と生化学会の合併について真剣に議論すべきと考えます。
※	様々な分野を網羅したバイオ系の大会の意義は大いにあると思う
※	日本人メイン(外国人の姿は皆無と言っていいくらい少なかった)の国内学会なので、ポスターや要旨は日本語で十分ではないかと思う。タイトルのみが和文英文併記くらいが十分ではないかと思う。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催がよいが、それは、遺伝子関連など両学会で重複した分野を単独の学会として分離するなど、規模の縮小化、特異化を図るほうがよい。
※	教室としては生化学会の教室で、分子生物学会には毎年出られるわけではない。合同開催と一緒に学会をすると、若い世代の力を感じて刺激になる。毎年は無理でも、時々合同開催してもらえるとよいように思います。
※	合同開催か単独開催なのかどのように決められているか不透明。合同開催なのか単独開催なのか、学会上層部の気まぐれで決めるのではなく、会員の意向を参考にしてほしい。少なくとも私は、定期的な合同開催を希望する(隔年で合同開催など)
※	生化学会と分子生物学会は統一すべきだと思う。
※	まずはこの2つの学会が一緒にやることからスタートすべき
※	合同でおこなうのが良いと思うが、規模が大きくなりすぎて会場に人が溢れていました。
※	5年に一度程度合同が良いと思います。ただし、今回の神戸では、移動に時間がかかって、聞きたいものが聞けなかったり、会場が小さすぎて立ち見が多かったりしたので、スケジュールと場所には工夫が欲しいです。
※	毎回分子生物学会と生化学会の合同開催をしてほしい。参加する人がほとんどかぶる学会が近い時期に2回行われるのは参加する方も聞く方も時間が無駄である。
※	日本と韓国だけが依然として二つの学会にわかれています。生化学会は合併にかなり前向きでしたが、分子生物学会が反対だった経緯があります。努力して一つにすべきでしょう。どうしても組織上一つにできないのなら、毎年合同開催とすべきです。研究費の無駄遣いです。企業もそのほうが良いでしょう。
※	学会自体を合併したほうがよい。
※	今までのように2年に一度の合同開催でいいと思います。
※	現在のように時々合同で良いのではないのでしょうか。
※	5年に1回程度の合同開催でよい。
※	分子生物学会と生化学会の発表内容は、ほぼ同じである。時間とコストを節約するために、両学会自体を統合した方がよいのではないのでしょうか。
※	大きくしすぎるのがやはり一番の問題ですね。
※	毎年ではなく、数年に1回程度の合同開催でよい。
※	テーマと参加者が広がるので合同開催を支持します。最近の生化学会単独開催は寂しい感じ。
※	学術年会としては合同開催を支持する。学会として融合するかどうかは別の課題。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催の意味が分からない。合同開催を続けるより、単独で存続出来ないなら吸収合併すべきである。
※	合同大会は3年に一度か隔年でも良い。
※	分子生物学の範囲が広がりすぎているからでしょうが、純粋に「分子生物学」を駆使して研究されている演題が減ってきた印象です。
※	3~4年ごとに合同開催がよい
※	合同開催にすると単独開催よりもワークショップの数の制約が厳しくなるように思う。もしそれが嫌なら単独開催にすれば良いが、それはあくまでも開催側の考え方で、合同開催にするなら合同であることによって生まれる効果がわかるようなシンポジウム・ワークショップのあり方を考えて欲しい。
※	内容的には、細胞生物学会や発生生物学会、RNA学会、などいくらでもあると思うが、それぞれの学会は小さい規模だからこそ、良さ、があると思う。その意味では、大きい学会である生化学会なら、合同でもよいのかなと思う。
※	集団としての学会は分生と生化両方あっても良いが、大会の開催は合同にするべき
※	合同開催はプログラムが多くなりすぎて無理です。
※	昼の食事を安価にできる工夫をもう少ししてほしい。
※	合同開催は、色々な話が聴けて悪い事ではないけれども、演題が多すぎる事、宿泊施設が取りにくくなる事、食事が困る等の弊害もあります。一般の方々への配慮を行うのであれば、単独が良いと思います。
※	今回のように、時々合同ですというのが現実的な気がします。
※	年会が大きすぎてあまりディスカッションにつながる時間がない。
※	これまで通り、隔年あるいは3年毎くらいの頻度で合同大会を開催するのがよいと思います。
※	今後とも両学会の合同開催の継続を強く希望します。生化学会単独では盛り上がらないし、分生も生化学会と合同の方が企画にバラエティが出てより良い。
※	合同開催はよいとおもうのですが、その結果、規模が大きくなりすぎてしまっているのではないのでしょうか。
※	シンポジウムやワークショップの一つとして、特定の分野の小さな学会とのコラボというのも面白いのではないかと思います。
※	単独でも共催でも巨大すぎるのに変わりはないのでどちらでもよい。
※	●大きな大会であることに満足せず、学術大会としての品質向上をしなければ、参加する意義は失われていくと思う。●テーマが細分化される現状ではあるが、その分野の総括的な話と最先端の研究情報を同時に得たいからこそ、参加する意味がある。シンポ・ワークショップオーガナイザーの力量が問われる。
※	数年に一度くらいで、合同大会があるとよいと思います
※	数年に一度、あらゆる分野の生物系を一堂に集めた 生物学会があると楽しそう。
※	規模が拡大したときの交通手段、宿泊場所等に問題がある。
※	理事会も含めトップがいつも同じようなメンバーであるため、何をやっても代り映えがしない。
※	ポスターに意見表は必要ない。機能していない。
※	上にも書いたが、参加人数がそれぞれ多い2つの学会の大会を合同で行う理由がよく分からない。無駄に巨大になり、会場の移動も容易ではない。



質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	分子生物学と生化学会の違いが僕にはわかりません。いつもどちらか片方を選んでいますが、同時開催が良いのではないのでしょうか。規模については賛否両論ありますが、僕はこの規模のものが存続しても良いと思います。分野横断的な情報収集ができるのが僕にとって大きな利点です。
※	合同にするなら、学会そのものを一つにまとめた方が良いのでは。
※	臨床寄りの学会では基礎研究の情報があまり入ってこないため、基礎分野である分子生物学会との合同開催は有意義になると思われる。分子生物学会としても昨今の研究情勢・科研費獲得状況を考えると臨床応用を踏まえた内容が大きく評価される傾向から臨床・疾患分野の研究内容を取り入れることは有意義であると思われる。臨床系の学会は細分化されている傾向にあるが、病理学会であれば他疾患・多臓器に渡る研究がなされているため合同開催可能と考える。
※	合同年会は数年に1回で良いと思います。分子生物学会と生化学会ではまだコミュニティが大きく違います。
※	日本分子生物学会と日本生化学会、もはや合併を考える時期にも来ているのではないのでしょうか。
※	合同開催はあっても良いと思うが、人数が多すぎる。
※	これまで通り、年によって単独開催と共同開催が変わるシステムがよいと思う。
※	いつまでも古いしがらみにとらわれず、本邦の生命科学研究の核として、生化学と分子生物はひとつの組織にまとまるべきである。
※	分子生物学会と生化学会を合併すべき。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催がよいが、毎年ではなく何年かごと合同開催がよい。
※	時々合同、ときどき別々の今のスタイルでいいと思います。
※	合同開催が絶対によい。学会は別でもよいが(ただし、個人的には統合されるのを希望しています)、どんどん違いがなくなってきましたし、内容もつまらなくなってきましたので、それしか道がないような気がします。
※	分生も生化も、ともに会員が漸減している。合同開催で、ちょうどよい。大学が合同であれば、他の小規模の学会や研究会への参加が時間的にも経済的にも、しやすくなる。
※	生化との合同はもうやらないでほしい。

質問17. 会員懇親会の開催について（その他）

回答者番号	その他記述
※	ポスター会場での懇親会
※	合同であれば、学会別でもやった方が良くはないか？
※	ポスターミキサーで良いので、多くの人と呑める機会はあるといいと思った。
※	化学会のChem-Station主催のイブニングミキサーのようなものがあるとよい。飲食物をその場で購入するスタイル。SNSを使って参加予定人数を事前にある程度把握できる。
※	あの規模で行うのは大変なので、小分科会に分かれて、毎日行うなどしてもよかったですか？（会場の確保などあるので、先着順など人数制限を設け、会場はホテルが望ましい）懇親会での研究者同士の交流は、共同研究の相談や就職情報収集をはじめ、とても大事だと考えてますので。
※	参加費をもっと安くできるのではないのでしょうか。また、会場の設定も外国人観光客とバッティングしない都市を積極的に選ぶべきでしょう。ホテルがとれず往生しました。
※	この規模になれば不要です。ポスター会場で十分話ができます。
※	テーマを持った懇親会の開催があると良い。たとえば、●Meet the speakers(speakerも参加費を払うことに意味がある) ●女性科学者を中心とする交流会 ●求職中PDと、スタッフ公募中のPIとの交流会 ただし、自由参加型有志の企画として参加費実費を全員から徴収し、学会経費から負担はしない。以上の案はありますが、開催にたどり着くまでの準備は大変で、現実的ではないと思直しました。
※	海外の学会のように、ポスターセッションの時間を延長し、軽食・アルコール類を出す形にするのはダメなのでしょうか。
※	会員懇親会は特に必要ではない。そのためのSNSだと思えます。
※	懇親会は必要ではないが、かつてのミキサーのように、ポスター会場付近などで気軽に会話できる場所があってもよい。
※	〇〇さんの第屋食会を経験すると、不満だが、あれは特別の例外。懇親会はなくてよい。
※	若手が輪を広げられる様な会であれば開催すべきですが、どの学会にも言えることですが、偉い先生方の同窓会になっていて、あまり有意義ではない気がします。研究者にはコミュニケーション能力が必要ですが、これが無い方が多いので、現時点では、開催しない方が良くと思います。
※	懇談会という形でなくそれぞれのセッションでしたほうがよい。
※	すばらしい！ 全く必要ないので、ぜひ今後もやめて欲しい。どうせ、一部の年寄りのためだけのものなので、時間もお金もムダになる。だったら、学会らしいちゃんとした企画にもっと時間を使ったほうがよい。懇親会が機能するのは、500人以下ぐらいの小規模な学会だけだと思う。
※	会員懇親会が可能な規模ではないので必要なし。ただし、ソーシャルのセッションを設けても良いのでは。
※	分野別に分かれた懇親会場を設置するが各懇親会場を行き来できるような大懇親会を開いて欲しい。乾杯は各会場のテレビで会長のありがたい言葉を聞きながらするなどする。
※	ポスター、展示会場でミキサーをやれば良い。
※	アンケートを何度とつてもなかなか反映されない訳で、予算と時間の無駄。これらの予算も年会費から支払われている訳ですよね。理事や会長の売名行為のためだけの学会なら止めたら良い。理事会メンバー総入れ替えを提案したい(何年同じメンバーが理事をやっているんです?)。
※	従来通りの懇親会ならしてはいけない。経理的に大会に負担がかかるばかりか、今さらPI間で懇親の場を設ける意味がない。若手会員(ポストドクや大学院生)がPIを囲む懇親会の企画なら、検討の意味があるかも。
※	この大会規模でやるのは意味が無い。ポスター会場が一つでやれる規模になれば、ポスター会場でもミキサーとかはあっても良いと思う。
※	合同であれ、単独であれ学会が大きいので、大抵は、懇親会を開いても一部の人間だけが参加することになると思われる。目的を明確にし、別の機会を設けたらいいと思う。
※	今回のように合同で行った場合、懇親会の開催は不可能であると思うし、必要とも思わない。
※	この規模で会員懇親会をしても、どれほどの意義があるのか末端会員の僕にはわかりません。個別に開催するのはいかがでしょうか？シンポジウムやワークショップごとに懇親会を開催し、演者とオーディエンスの交流を深める機会としてみるなどの工夫があっても良いと思います。
※	この規模では難しいのでは？
※	Pacificchem のようにポスター会場で飲料とつまみを出す程度で十分だろうと思います。
※	この規模では難しいのではないか。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	男女共同参画のランチオンに参加したが、あまりよくなかった。パネリストは勉強不足だし、結局何を主張したいのか判然としなかった。個別の研究者の経験談や愚痴は最低限にして、学会として改善可能・提案可能な内容に絞って議論すべきではないか。
※	ランチオンセミナーの予約制はやめて頂きたい。出張等で予約できない場合不公平である。以前のように、当日朝配布の方にして頂きたい。
※	ランチオンセミナーの事前予約はウェブがパンクしたのかずっと繋がらず、繋がったと思ったら既に満席でがっかりしました。
※	会場の都合などがあるのは理解できますが、毎年同じ時期に開催できればよいです。学会の規模が大きいのに、発表が流れ作業にならず、しっかり議論する雰囲気がある点で優れた大会であったと思います。運営に関係する方の努力に敬意を表します。
※	本プログラムの最中に、生化学会のプログラムを組み込んだのは、まずかった。なにもない時間帯に行うべきである。
※	今後も是非合同開催を行ってください。
※	ランチオンセミナーの事前予約のシステムが酷かった。アクセスが集中して繋がった頃にはすべて満員で、時間の無駄でした。参加人数を考えると、こうなることが予想されていたと思うが、全く配慮がなくて残念でした。当日も1日だけキャンセル待ちのため会場と並んでみたが、30分以上も待つことになり、貴重な時間をただ待つことに費やされるのはもの凄く苦痛でした。今後このような状況であれば、ランチオンセミナーは不要だと思います。
※	合同開催か単独開催なのかどのように決められているか説明が欲しい。2、3年に1回は合同開催にするなど定期的な合同開催を強く望む。
※	ランチオンセミナーの事前予約は絶対反対。当日券は1時間前から並ぶ必要があった。今まで通り朝チケットにするか、事前予約なら部分的な発券をやめて100%事前予約(当時券なし)にすべき(絶対に！)
※	参加費が高い、事前に払いきくい
※	大規模学会にしかできない企画をもっと全面に押し出した方がよいと思います。ここまで大きいとお祭りの雰囲気がありますので、サイエンスの祭りとしてハメをはずすくらいの企画があると楽しいですね。
※	一般口頭発表について会場が狭すぎるものがいくつもあった。
※	プログラム(特にシンポジウム)に透明性が感じられなかった。シンポジウムの内容が初めから決まっているのはおかしいと思う。なぜ、アンケート等が事前になかったのであろうか？プログラム委員の傲慢さを感じる。
※	特になし
※	分子生物学会と生化学会は、学会として別でもよいですが、大会は恒常的に合同にして頂きたいです。神戸会場は会場が分散するため、立地がよくありません。開始時間を前倒し、終了時間を後ろ倒し、昼の空き時間をなくせば、同時に開催されるシンポ・ワークショップの数を減らすことができ、その分、多くのシンポ・ワークショップに出席できます。現行では、出席したいシンポ・ワークショップが重なってしまいます。
※	最終日にもポスター発表があるとよかった。聞きたいシンポジウムやワークショップがたくさんあって、ポスターも毎日1400個くらいあったのでかなり疲れました。
※	天井が低いため、スクリーンが小さい会場が非常に多かった。立ち見が出るほど満員なのに前に座っている人以外は、スライドが見えなかった。このような会場しかない神戸での開催を今後は避けることを強く要望する。
※	ランチオンの登録システムを変える必要がある。参加企業のみならず参加者にも不満があったと思う。
※	ランチオンセミナーの整理券がオンライン事前予約制になったが、あつと言う間にアクセスできなくなり(予定数オーバーになり?)、当日券を入手することになった。が、その当日券も、場所と時間を予告してはつきり通知して配布すればいいのに曖昧なままだったし、数が決まっている当日券を1時間近くも並ばせて12:15の入場開始と共に配布するとは驚きだった。また、予約整理券でいっぱいだったという割には、空席が目立った会場もあった。予約制は止め、従来の当日朝配布という方法に戻した方が、時間を有効に使えようとする。
※	演題取り消しをしていないにも拘らず(?)貼付けていないポスターがかなり認められた。ポスターを貼付けたことを証明するようなシステムが必要では？
※	本学会に限らずよく思うことですが、ポスター訪問のマナー(もっと言えば質疑も)を良くするような啓発が必要だと思います。特に初めて発表する人や参加する人には指導者が指導すべきかと思います。例えば一人の人がずっとポスター発表者に質問し続け(発表者の方も問題ですが)他の訪問者が近づけない、知り合いで集まり雑談をする、といった光景がありました。質疑も時間制限を考えないで、遅れが生じて後のプログラムに影響するという事もありました。議論に熱心なこと自体はよいのですが、もう少し意識を持っていたらいいと思います。
※	神戸は交通の便がよくない。
※	運営の御苦労どうも有難うございます。とても有益な情報交換の場となりました。
※	ホテルの会場は平面であり、スクリーンの高さが低いので、画面を全て見るのが困難だった。可能であれば、階段状が高い位置に画面を出せる環境が望ましいと感じた。
※	今回は、移動距離が長く、混み合うことも多かったため、苦汁の選択ではあるがプログラムを早めに退出し、次のプログラムに参加する事が多かった。プログラムの進行を時間厳守にして頂く事と、プログラム間の時間をもう少しとって欲しい。ランチオンセミナーで終了時刻を過ぎても終わらないものがあった。ランチオンセミナーは退出にただでさえも時間がかかり、早めの退出という手段がとり難いため、特に時間厳守をお願いしたい。
※	学会は「学者の休日」だと思っています、今回は楽しくてしかも勉強になりました、よかったと思います
※	ランチオンセミナーの方式について、オンラインでの申し込みはやめてほしい。オンライン解禁当日に用事があり、アクセスできなかったため、不公平と感じました。併用するにしても当日券との割合を考慮してほしいと思います。
※	参加費が高い。
※	今回のランチオンセミナーのやり方は良くなかったと思う。以前の方式の方が良かった。
※	神戸国際会議場はひとつひとつの部屋が小さく、またそれぞれの場所もわかりづらかったので、あまり口演が聴けなかった。ポートアイランドは毎回ホテルを取るのも苦労するし(尼崎に泊まった人もいます)、ポートライナーの混雑にも閉口します。今後はもう少し便利でコンパクトな会場を希望します。
※	プログラム編成が非常に悪い。同じ分野の発表が異なるセッション、異なる日程に分れていた。こういった編成は初めての経験である。申し込まれた要旨から適切に内容を判断する能力が求められていると思います。



質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	論文や他の学会で発表した話が多く、参加する意味があるのか疑問に思った。イントロやバックグラウンドは別にして主要なデータは新規のものに限定するべきであるし、学会で聞いた話をまねするような行為も禁止すべきだと思う。
※	物理的に難しいとは思いますが、小さな発表会場の混雑ぶりが改善されると嬉しいです。
※	ガチ議論、webでフォローしてました。ガチ議論のような企画をもっとしていかないといけないと思います。でも、やるなら、もっとガチにやらないとだめだと思います。開会前に登壇者が全員で軽食を囲っているのはおかしいでしょう。本気でやるなら、試合前のボクサー並に闘志をたぎらせないと。内容も不完全燃焼で、議論というかただの会合って感じで、残念でした。次は田原総一郎氏なみに、「あなたの言ってることはおかしい！」と怒れる人に登壇して欲しい。
※	分子生物学会と生化学会の大会は一緒にやるべきだ。生命系の最大規模で集まることに意義はあるし、意見や提言の取りまとめのようなものも行っとほしい。今、科学技術が危機であることがきちんと認識されていれば、学会は分散すべきでないことは自明のハズ。
※	大学院生の参加費をもっと安くして欲しいです。お昼に弁当を配布して口頭発表をするのは詰め過ぎだと思いました。分野が近いワークショップが並立して行われるプログラムは配慮が足りないと思いました。ポスター会場の活気が今年は低いように感じました。ポスター発表の優秀賞を選ぶと良いのではないのでしょうか。質問、コメントの封筒は機能していないと思います。snsのコメント機能で十分だと思います。
※	両学会ともに、解散・再編を検討したほうが良いように感じました。
※	今回の学会は、満足感が低かった。シンポジウム、ワークショップで得られた知識が少なかった。研究者間での議論ができなかった。人が多く集まっただけの印象。
※	プログラムや会場のダイジェスト版のミニ冊子の当日配布が便利であったり、楽しめる企画、細々としたところに気配りが行き届いていた。
※	斬新な企画を実践されていてbmb2015にかかる熱意を感じました。他でも言われていると思いますが、ランチョンの事前予約システムには不公平さを感じました。
※	大会側が自前で用意するシンポジウムの数を少なめにして、その分、公募によるWSの数を相対的に多くした運営方針は今後も踏襲していただきたい。また、現在のところ公募WS採択の審査経過的なことは公開されていないが、どのような議論(検討)によって採択・非採択が決定されているかを学会員に説明したり、(科研費のように)非採択とされたWS応募に対しては希望に応じて非採択の理由をfeedbackすることが望ましい。透明性を保つことは学会の健全性を特に若い会員に納得してもらうために重要と考える。
※	wifiが少ないのは少々つらかったですが、分子生物学会との合同開催はいつも楽しめます。生化学会単独だと物足りなく思うときもあります。
※	内輪で固まったワークショップは必要ない
※	12/3の夜から4日の参加でしたが、楽しかったです。
※	会場周辺にはお店が少ないのか、ランチョンセミナーを聴かないと、食堂が混んでいてなかなか取れませんでした。出店もありましたが、もっと増やしてもよかったのでは？ 素晴らしい学会でした、ありがとうございました。
※	一昨年の神戸の分子生物学会が遊び心があって楽しくて良かった。
※	今回は複数の会場にわかれすぎており、移動が大変であった。講演ごとに別会場であってもなかなか移動できない。また、ランチョンセミナーの事前予約はかなり早々になくなってしまい、不便であった。もう少し数を増やしてほしい。
※	ワークショップの部屋が狭くて(宴会場ルビー)、立ち見の人以外に開放されたドアの外の廊下から聞いている人もいたので、もう少し広い部屋にしてもらいたかった。
※	ワースショップ、一般口頭発表の会場は狭過ぎたようで、多くの会場で立ち見や会場の入り口にあふれ出していた。
※	1日目のポスター発表でしたが仕事の関係上、2日目の予備枠に変更してポスター発表を行いました。変更した際に、事務局の方から「プログラムは印刷してしまったので1日目のポスター枠に変更の旨の貼り紙を張ります」と電話でお聞きしましたので安心しておりましたが、貼られておらず、当日無断でポスター発表を休んだかようになっておりました。今回、合同大会ということで事務局の方々はご多忙であったかと思いますが、非常に残念でしたし、スケジュール登録されていた方々にもご迷惑をかける形になってしまいました。事務局が貼らないなら貼らないで個人で貼ってくださいの旨を伝えてほしかったです。言葉を鵜呑みにした私にも非があるかと思いますが、非常に不満が募る学会でした。
※	会場までの交通手段がポートライナーに限定されるので混雑しすぎて大変である。本会場で開催する場合は臨時バスの運行も検討していただきたい。
※	ランチョンセミナーは、以前のように朝に整理券を配るのがよい
※	ランチョンセミナーで、当日券を求めて並んで待つのは、時間の無駄です。予約システムをもっと活用すべきです。
※	口演会場のつくりが複雑で非常に分かりにくかった。もっと、通路・ロビーに案内図などの表示を置いてほしい。
※	研究者の退職に伴って高額機器が廃棄されることがあると思いますが、若手で実績が少ないために高額機器が買えない研究者も多いと思います。そこで、学会もしくは関連団体や賛助団体が両者の橋渡しをするシステム、あるいは廃棄機器をプールして希望者に譲渡するシステムを構築することで、科研費の無駄遣いを防ぐとともに、若手にチャンスを与えることが出来ると思いますので、是非ご検討をお願い致します。文科省へのパイプがあるようでしたら、お伝えいただきたく存じます。
※	単独開催(生化学)よりも細かいところまで非常に行き届いて大変満足した学会だった。ただ立ち見することが多く疲れた。会場前にシンポジウムのタイトルがあるとわかりやすかった。場合によっては議論の時間が足りないことが多かったような気がする。ポスターは奇数>偶数だと、奇数の議論が終わってなくて、偶数がさみしい傾向にあった。もっとよいスタイルはないだろうか。キアゲンのようにお茶スペースと企業紹介がセットになったものは助かるし、勉強にもなる。ランチョンよりもそういう機会を増やした方が企業も喜ぶのではとおもった。
※	開催地は外国人観光客とパツティングしない都市を積極的に選ぶべきでしょう。ホテルの予約がとれず困ったのは私だけではないと思います。
※	ポスターは目を引きました！(〇〇会頭作でしょうか?)
※	プログラム編成は大変だとは思いますが、明らかに参加者の大半が重なるセッションを同じ時間帯に持ってくることは避けていただきたかったです。カリプログラムができた時点で、シンポジウムやWSのオーガナイザーに確認することはできないものでしょうか。



質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	ホテルの確保が難しくなっているため、プログラムをもっと早く公開してほしい。教員は全日程参加するので良いが、学生は予算の都合上で一部日程しか参加できないので日程を早期に確定したい。食事できる場所が少なかった。ランチョン以外で提供されているのが、ポスター会場前の屋台だけだったが、増やしてほしい。食べるための椅子も少なかった。開催は10月か11月の暖かい季節が良い。会場でコートが邪魔になる。
※	開催時期を9月にしてほしい(多くの大学が9月は学生の夏期休暇のため講義や実習などの予定がない)。開催時期を12月上旬はやめてほしい(推薦入試や卒論発表などが重なる)
※	大会が盛況なのは大変良いことだが、口頭発表の多くの会場で参加者が入りきれず、またそのため、ワークショップ間を移動して興味ある発表を聞くことができない状態であった。適切な部屋の大きさについて検討してもらいたい。また、他の学会でも同様であるが、スライドスクリーンの位置が不適切で、前から3列くらいでないとならばスクリーンの下半分は見ることができず、大変不満が残った。画面が小さくなくても、上に上げるとか工夫できないだろうか。
※	ランチョンの事前予約システムがうまく機能せず、エラーばかりだった。あげくに希望のセミナーはとれなかった。事前予約するならば、対応できるシステムを整備してからにしてもらいたい。今回はよい学会だったが、最大の不満がこれである。
※	●興味を引く多様な企画ではなく、また、利便性にお金をかけるのではなく、学術大会としての中身の選別と向上について、いま一度考えるべき時期にある。●基礎研究の充実と、すそ野の広い研究、を呼び掛ける年会となってほしい。
※	ランチョンセミナーチケットの事前予約は一瞬で一杯になったようだ。時間に余裕のない教員など、企画側に来て欲しいと思っているであろう層の多くが、実質参加をあきらめた側面がある。私自身、参加したいものの参加をあきらめた。その分、プレナリーレクチャーなどに参加できたので個人的には良かったが。
※	WiFi接続環境は全会場で確保してほしい 最終日にもランチョンセミナーの配置希望。
※	両学会を別々に行う意味はすでになくなっている事を痛感しました。ぜひ今後、学会の合併も含めた検討を進めて欲しい。
※	無線LANが展示会場でしか使えなかったため、すべての会場で使えるようにしてほしい。特に、SNS等を利用するセッションで使用できなかったため不便であった。ランチョンの配布は以前のようにするか、少なくとも当日配布は朝からの先着で配って欲しい。
※	ポスター最終日の最後は展示の撤収と重なりたいへんあわただしかった。時間に余裕を持たせるべきで良かった。あるワークショップでのことだが、講演中に音楽が流れて講演が台無しになった。ホテルのミスであろうが、その際のスタッフの対応も迅速でなく、座長が動いて始めておさまった。スタッフの教育も含めて運営体制に反省すべき重大な問題がある。
※	学生のポスター発表には指導教員が共に立ち会うべきではないかと思う。
※	ポスター発表前のワークショップ、口頭発表の時間設定がぎりぎりだったため、参加できないセッションがありました。会場が分散しているため時間は余裕を持って頂けたらありがたいです。
※	ランチョンセミナー並ぶのは大変
※	一般発表とワークショップの間の時間が短く、一般発表の時間が遅れたので、ワークショップも遅れてしまった。午前のシンポジウムとランチョンセミナーの時間が長過ぎて、スケジュール管理がうまくできていなかった。発表会場に音楽が流れたり、ホテル側の不備が非常に気になった。
※	特にありません。次回は生化学会と分子生物学会で発表会場を振り分けたりすると面白くなるかもしれません。それぞれの学会の特色を出しつつ合同年会とするのも良いでしょう。いろいろな形式がありますからまだまだ試すべきことがあると思います。
※	素晴らしい運営をありがとうございました。
※	生化学会と統一して分子レベルの状態反応から生物学を探究する人が集まる会にすれば良いと思う。
※	バイオテクノロジーセミナー(ランチョンセミナー)のオンライン予約システムに不具合があったのが非常に残念でした。本セミナーへの参加意志が強い方はオンライン予約開始直後に予約をとろうとする方が多いと思いますが、エラーが出て全く予約ができない状態でした。ところが予約開始後数時間経ってから初めて予約手続きを行った方の中には予約が取れた方もいるなど、非常に不公平かつ効率の悪いシステムでした。不幸中の幸いで、当日セミナー開始直前の整理券直接配布では整理券を一部取得することができました。来年以降はオンライン予約システムをもっと正常に機能するように改善するか、従来の直接配布方式に戻すか、あるいはその併用が良いと思います。整理券直接配布の場合は、できれば配布枚数を朝とお昼前の2回に分けて、それぞれ配布するのが良いと思います。
※	以前はホテル奥もポスター会場になっており、移動が非常に大変だったため、今回はポスター会場が一角にまとまっていたのは非常に良かった。
※	ランチョンセミナーの事前予約システムは大変良かった。WiFi 利用可能エリアをできるだけ広く取ってほしい。
※	ガチ議論がよかったが、どうも声が届いていないように思う。一度、学校からどの程度のお金が研究室においてきているのか、統計を実施すると興味深い結果がえられるかもしれない。
※	生化学会と分子生物学会の合併について未だに上層部は消極的であることに驚いた。一般の若手会員からすると、時代錯誤と感じる。
※	シンポジウムなどの顔ぶれがいつも同じなので、学生やポスドクにスピーカーを限定したセッションがあったほうが良い。リキテンシュタインやウオーホールを使うなら、日本の芸術家を起用してはどうですか。
※	最終日(4日)の昼休みに休憩する場所が欲しい。最終日はポスター会場附属の休憩場が無くなっていて、ホテル内のソファもすべて埋まっていたため、居場所を確保するのが大変だった。せめて会場のいくつかを休憩・談話用に空けておいてほしい。
※	ネット環境の向上と、動線の管理は必要かと思えます。
※	ポスター発表にメモを残せるのは良かったが、メモ用紙を入口だけで配るのは不便だと思った。
※	学会のサイトからホテルの予約をしたが、喫煙ルームになってしまい、慌てて現地で別のホテルを探したり部屋を動いたりしたので、宿泊先の予約の際には、禁煙・喫煙の別を明示して可能な限り希望に添ってもらえるとありがたい。
※	参加費が高い。
※	最終日のワークショップ時に昼食が配られたのは良かった
※	学会所属者には、参加不参加にかかわらず、前もってアブストラクトを見れるようにしてもらいたい。学会参加できるか直前までわからず、その時には既にwebでの参加申し込みができず、学会当日にパスワードをもらっても閲覧の時間がない。
※	会場に近い宿泊先が十分確保されておらず、連泊する予約が取れなかった。割高であった。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	生化学会と分子生物学会は今後とも一つにまとめて開催してほしいです。
※	ランチョンセミナーの形式をうまく考えていかなくてはならない時期かと思う。参加者数とランチョンセミナー数のアンバランスから、セッションに普通に参加している当日券の配布にも参加出来ないのも、うまく考えて欲しい。
※	会場が分散しすぎていたのがよくなかった。特にポスター会場が4箇所にも分かれていたのはよくなかった。
※	運営お疲れ様でした。
※	4日目(最終日)はポスター・展示会場が閉鎖されていたため、ネットが使えなかった。全日使えるようにしていただけるとありがたい。
※	ランチョンセミナーの事前予約はありがたかったが、当初トラブルが多く、アクセスが大変であった。私はどうにか手に入れることができたが、外でお昼を食べる場所も少ない会場での開催の場合は今後、スムーズにできる対策を望む。
※	だいたいいつも通りで悪くはなかった。
※	WiFiがポスター会場のみしか使えなかったのが不自由でした。ランチョンセミナー事前予約は中止して欲しい。
※	全ての会場にwifi設備が無かったのがとても不便だった。企業ブースとポスターの配置がとても良かった。発表者が自分のPCで発表できるほうが良い。
※	WiFiが、ポスター会場でしかつかえず、不便、最終日のお弁当配布はスケジュール上、助かるが、その予算をWiFiに回してもらった方が良くと思う。
※	予算をかける場所を再考すれば、参加者がよりサイエンスの情報交換や知り合いを増やす場を設けることが可能ではないか。
※	非常に良かった。
※	プログラム編成や、会場の分割等で不十分さが特に目についた気がする。JTBの宿泊予約が poor すぎ。禁煙指定できないとか禁煙リクエストが守られないとかあり得ない。JTBが押さえているせいで一般予約ができなくなっていることが多いのに、リクエストが守られないとかあり得ない。JTB等業者を入れる意味が無い、というかむしろ止めるべき。今はネットで予約できます。
※	最終日にwifiエリアがなかったように思いますが、大変不便でした。
※	ランチョンセミナーの整理券の予約は良かった。ただし、予約開始時間ネットにつながらなかったのも、アクセスが集中しても大丈夫のようにシステムを強化してもらいたい。
※	wifiに繋がらない場所も多かったのも、wifiありきではなくてアプリ完全独立で成立するようにしてほしい。
※	類似テーマが同時帯で重なることをできるだけ避けていただきたい。またどうしても重なる場合には両会場(建物などについて)を近接させて欲しい。例: 今大会の1S4と1W20
※	ランチョンのチケットが何時間もサイトに繋がらず取れなかったことがやや不満。合同大会に関しては、分子生物学会員として生化学会に参加できたのが有益だった。
※	ランチョンの予約システムを何とかしてほしい
※	ランチョンセミナーの予約システムは今ひとつでした。結局予約できなかった。
※	ランチョンは必要ない。
※	神戸で行うのは良いが、ポートライナーの価格が高すぎる！ とにかく高すぎる！ あんなに大勢の会員が利用し、売りに上げて貢献するのだから会員は期間限定で割引制度を作ってもらえないのでしょうか？ ポートライナーが安ければ神戸で良いのに。学生にとってもきついです。
※	お疲れ様でした。
※	ランチョンセミナーは応募券を当日朝に配布する以前の方式で問題ないと思う。ネットでの予約が混み合うため、希望のランチョンを予約することができなかった。もしくは当日券の配布は朝に行って欲しい。ランチョンの配布券をとるためにわざわざ昼に待つのは予定がたてずらい。第26、27会場の場所が分かりにくい。(建物に入ってから場所がどこか分かりにくかった) 昼休みをもう少し長くするといい。プレナリー・レクチャーとランチョンが時間ぎりぎり、次の会場への移動時間が足りない。ランチョンに出ない人も長めの食事をとったり、ポスターをじっくり見れるから、昼休みを少し長くするのは問題ないと思う。
※	ご意見のポケットはとても良いアイデアでした。ネットで書き込めるけど、全員がネットに慣れてないので。
※	会場近くにお店が少ないので昼食などがやや困難でした。神戸行きの有料シャトルバスを朝夕に(特に夕方に)設定してもらえるとありがたいです。
※	ポスター会場外でもネットに接続できるようにしてほしい。ポスター会場でも、時間によっては混みすぎるせいか、Webにアクセスできないことがかなりあったのは大変困る。
※	ワークショップでの収容人数が少なすぎて立ち見をしないといけないうことが多々ありました。とてもきつかったです。
※	神戸の会場は昼食を摂るお店が少なすぎ 餓死するかと思いました
※	商工会議所は場所が離れているだけでなく、案内表示も不明確で不便である。多くの会場があふれんばかりに人が入っているのに対し、商工会議所でのセッションはどれも人が少なかったことから、その不便さ、分かりにくさがわかる。今後、あの施設は使うべきではなく、トーク希望者が多いのであれば、当否選択して、メイン会場のみで行う形式をとるべきである。
※	最終日、特に午後は参加者が激減しており、興味深い発表がたくさんあったのですが、一般講演、ワークショップなどの演者に申し訳ないくらいでした。一般口頭発表で発表された方も、前日にポスターで発表が終わっていますので、いかにもはずれを引いたという感じでした。最終日はポスターもなく、企業展示もなく、おまけの日、途中で帰ってもよい日、という感じになってしまっています。4日目はなくして、会期を3日にし、3日目の夜までびっちりポスター発表などのプログラムを入れて、(場合によっては、3日目の夜に全体懇親会を入れてもよいかもしれません)、遠方から参加されている人は、4日目の朝に帰途に就くという、日程にしてほしいです。
※	各分野のオーバービュートーク、レビュートークという枠を新設してほしい
※	合同開催は特別な事情がない限りやるべきではないともいます。会場が混みすぎて入れない所も幾つかありましたし、プログラムが複雑でゆっくりみれません。参加者の立場に立って執行部はご判断ください。



質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	WiFiがなく、大変不便でした。とくに地下の会場は携帯の電波も入らず、困るので、優先順位を高くするよう検討してほしい。夜ゼミ機能がなくなったのはやはり良くなかったと思います。4日目の口頭発表など運営に問題がある箇所があったと思うので、今後改善してほしい。オンライン版のみにして紙媒体を減らし、コストダウンさせる余地はあるはずなのに、ポスター発表の茶封筒などむしろ逆の流れでがっかりしました。神戸と横浜以外に地方の特色が出せる場所での開催を検討してほしい。
※	殆ど注目されていない分野に果敢にチャレンジを続けていたり、全く新しい発想で何か尖ったことをコツコツと積み上げてきている研究者に、毎年スポットライトを順番に当てていってあげて欲しい。完成された有名な分野に若い人をリクルートするよりも、未開拓分野に興味を持って若い人に参加してもらって新規分野を活性化させることが今の日本の科学には必要だと思う。
※	英語での口頭発表は不満なものが多かったです。無理に英語にしなくてもと言いたくなる演者が多かった。そういうセッションに限って外国人も少なかったように思う。日本は多いケースですが「英語が望ましい」というスタンスを見直すべき。英語教育はほかでもできる。
※	ランチョンセミナーの開始が遅い。無駄に開始が遅く、時間が短い。
※	近年、学術集会は、参加人数の関係上、大都市大施設が多いです。政府の地方創生というたい文句から、やはり、地方での開催も重要かと思えます。ぜひ、地方都市での開催の検討をお願いいたします。
※	日本中の分子生物学者を一度に同じ場所に集めなければいけない必要があるとは思えません。機関誌をもっと活用してopinionとかdiscussionを掲載するようにして風通しの良い組織になって欲しい。science/nature/cellを始め、皆やっていることです。
※	企業との相談ブースができていたのは、とてもよかった。製薬に限定せず、もっと増やして欲しい。あるいは、自由に使える面談室を、企業ブースの横に、もっとたくさん作って欲しい(オープンスペースでは相談できないから)。
※	神戸は会場が分散していて使いにくい。とくに、基調講演のメインホールが遠くて場所の案内がわかりにくかった。とてもお世話になりました。
※	規模が大きいで、これまでに踏襲されてきたやり方で何ら問題ないと思います。
※	何も言うことはないけれど、ただランチョンセミナーのWeb事前予約だけはやめてほしい。
※	会場が狭い、入りきらない部屋がおおすぎた
※	幅広い分野にわたり、いろいろな話が聞けるので、非常に良い学会だと思います。参加者が多いので、部屋の外でも視聴できる、またインターネットでも視聴できるというのが理想です。
※	ランチョンセミナーのやり方を考えた方がよい。事前予約制度はすぐになくなり、当日券も長蛇の列になり、そして券がなくても会場に並べばそれなりの人数が入って(入れないときは時間の無駄)、あまり効率が良くない
※	今後とも両学会の合同開催の継続を強く希望します。生化学会単独では盛り上がりがないし、分生も生化学会と合同の方が企画にバリエーションが出てより良い。なにより、学会参加の労力が一回ですむのがよい。
※	シンポジウムやワークショップに関しては、(特に神戸開催の場合)移動のし易さ、場所のわかりやすさに関して、部屋の当たり外れが大きく、ワークショップ企画者としては不満が残った。
※	学会の規模に対して理事のメンバーが固定されすぎているように感じます。学会としての魅力を失いつつあるように思います。
※	ネットがつながりにくいのは問題。関連分野のプログラムの重複が多すぎた。poster会場が分散しすぎで、プログラム編成に問題を感じた。
※	ランチョンの事前予約はシステムがパンクしてアクセスできなかったの、次回以降も行う場合システムを改良して下さい。午後の口頭発表セッションを2つに分けて会場数を減らした方が多くの発表を聞けるためありがたいです。
※	●学術年会のあり方として、発表内容を精査し選抜する時期に来ているのではないかと。会場数を限定することで、必然的にテーマを絞るなど、工夫が必要。海外では、小グループで2年ごとの開催でもテーマにフォーカスして、意味のある議論が出来る学会がある。●年々、アカデミアの財政的な厳しさも増す中、キャリアパス以前の問題として、「基礎研究の重要性」を提唱する試みも大会として行って欲しい。今後の研究環境のあり方の根幹にかかわる、大きな問題であると認識している。
※	丁寧な運営がなされていたと感じる。
※	たまには神戸・横浜以外の場所でも行っていただけると嬉しいです。
※	宿泊場所の問題はあるが、地方でやってほしいと思う。沖縄なら可能ではないか。魂胆が見えてしまっているが。
※	合同とは言えど4日間は長過ぎる
※	1万人規模の大会では神戸はホテル(研究費での出張費で宿泊できるホテル)が少な過ぎる。合同大会にするなら東京、大阪、横浜にすべき。
※	このところ毎回工夫をされていて、主催される方には感謝します。
※	ランチョンセミナーの事前予約制については、従来通りの方法に戻してほしい。
※	・神戸会場は広くてよい。毎年神戸でよい。・会期4日間は長すぎる。疲れる。
※	1万人の参加者を集められる学会は、そんなに多くは無い。このマンパワーを科学行政にも反映できるよう、何かができるはずと思っています。
※	分子生物学会の執行部は特定の大学や研究所に偏り過ぎる。生化学会のように支部形式をとり、地方の意見も聞けるようにしたほうが良い。ただし、東京や大阪は、東京とそれ以外の関東、大阪とそれ以外の近畿等と別にしたほうが良い。
※	食事を無償提供して頂いているのに、意見を述べるのはどうかとも思いますが、ランチョンセミナーの事前登録が2日目には登録できない状況になっていた。ランチョンセミナーの事前登録があったにも関わらず、当日券の配布で長蛇の列、長時間並ばされると言うのは如何なものでしょうか？
※	テーマの振り分けは参加者の負担が大きくなるのでやめてほしい
※	神戸で開催するとポートライナーが混雑してげんなりする。
※	神戸での開催時はいつも思うのですが、口頭発表で使用する部屋のスクリーン位置が低いので、前列の人の頭と重なってしまい非常に見にくかったです。せめてイスをずらして並べる等の工夫があればよいかもしれないと思いました。
※	ランチョンセミナーの事前予約については、大いに不満が残った。いっそのこと、ランチの配布とセミナーを分離した方がよいだろう。ランチは参加者全員に配布してはどうだろうか。
※	講演演題を英文でも記載するようにしないと外国人参加者はつらい

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	最終日のお弁当配布について、もう少しつこく各セッションの部屋ごとに宣伝をした方が良かった。良い企画であったのに、残ってしまったようで残念。
※	捏造問題はスルーですか？
※	ポスターセッションの時間を早めて欲しい。昼頃へ。
※	4日目はポスター・企業展示会場を閉鎖したために、無線LANの環境がなくなってしまいました。ポスター発表が終わったとはいえ、WEBサイトやアプリの使用が前提となっている以上、ホテルや国際会議場のロビーで使えるように配慮頂ければ幸いです。
※	プログラムがA5で、とても使いやすかったし、持ち歩きに便利だった。ネームカードがプラスチックに紐だったが、十分だと思う。他の学会のようにストラップを付けても学会が終われば捨てる意外にないので。余計な鞆やチャシのセットなどの供給がなくて、よかった。ともかく、抄録とネームカードだけあれば、学会参加は十分だと思う。それを実現した学会だった。他の学会でも同じようになっていくことを望む。
※	高校生の発表はなかなか良かった。ポスター会場に隣接して参加者がコーヒーを飲むスペースなど人通りが多いところにするのが良いと思う。今年の場所はQiagenがその役割をしてくれた感もあるがよかったと思う。
※	大会運営に当たられた皆様に感謝申し上げます。
※	シンポジウムやワークショップの会場で座れないところが多かった。ランチョンセミナーが少なかった。11時半から14時までプログラムが少な過ぎた。(三宮まで昼食に行くにはポートライナーが混んでいて運賃も高かった)
※	ここ数年の運営努力にはとても頭が下がる思いです。ありがとうございます。昔の分子生物学会に比べて、学会としての横のつながりや情報共有の強化を実感します。規模の大きさに伴うプログラムの複雑さをウェブシステムやアプリでカバーしたり、学会としての問題意識の共有(ガチ議論、キャリアパスなど)を促すイベントなど、素晴らしい試みばかりだと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。
※	今回無線LANがホテル、会議場では使えず、使用する場合は展示場に行く他はなかった。4日目は結局webもアプリも使い勝手が非常に悪くなった。会場となっている主だった場所では無線LANを設置してほしい。
※	優秀発表賞に関して、「20代だけ(あるいは30代の大学院在籍者)」を対象にされたのは、如何なものかと思いました。どの年代の研究者も一生懸命研究しており、花開く時期はそれぞれの環境や分野で違います。少なくとも、同じカテゴリー(例えば一般口演)の演題であれば、発表者の老若男女を問わず、全ての演題に対して等しく受賞のチャンスが与えられるべきであると思います。演題登録の時に、20代かどうかを確認してきたり、一般口頭発表の発表者で「年齢:2015年12月1日時点で31歳以上」を選択した人を対象に、後日「【BMB2015】若手優秀賞 対象者についてのご確認」というタイトルのメール配信がなされたことは、あまり気持ちの良いものではありませんでした。日本分子生物学会においては、キャリアパス委員会という委員会も存在しており、いろいろな応募のチャンスにおける厳しい年齢制限の弊害も認識されていると聞いていただけに、このようなことが年会で行われたのは非常に残念でした。
※	本当にお疲れ様でした。運営は大変だったと思います。
※	ランチョンセミナーの整理券は当日配布のみにした方がよいと思う。ある意味で平等のつもりかもしれないが、Web上であつという間に配布分が埋まってしまう、一度も利用できなかった。
※	組織委員会で、合同でやっている意味(目的)が見出せていない。
※	ガチ議論、よい企画だと思いますので何らかの形で続けてください。
※	一般参加者にとっては大きな問題も感じられず(これがいちばん大事なんだけど、けっこう難しい)、円滑に運営されていると感じました。どうもありがとうございます。
※	近年の過度な英語化指向が抑制されていたのが良かった。国際化の程度は今回くらいでちょうど良いと思う。特にプログラム集の演題表記についての日本語優先が好ましい。学術範囲が広い学会のため、分野外の発表演題も多く、それらをスクリーニングするのに役だった。
※	いろいろと難しいが、たいへんご尽力をなされていると思う。お疲れさまでした。
※	4日目のお昼にお弁当が出るのを知らなかったのも、とまどったが嬉しかった。
※	研究発表だけではなく、「教育的配慮に富んだ」エキスパートによる総説セミナーを行い、学会員全体のレベルを引き上げるような企画を増やして欲しい。地方大学や弱小私立大学の場合、なかなか著名人の講演を聴く機会がないので、本学会のような大規模学会では、世界中からより多くのゲストを招いて講演を行って欲しい。
※	ランチョンセミナーの事前予約制はやめてほしい。アクセスが集中したせいか、全然つながらなかった。
※	会場までのアクセスの問題がありますが、特に問題がないと思います。むしろ完璧に近いのではと思います。
※	合同大会になると人数や会場の規模など運営面でご苦労があると思いますが、おおむねよかったと思います。プログラム冊子が持ち歩きしやすかったこと、ランチョンセミナーを予約制にされたこと、市民講座や高校生の発表を加えるなど、新しい試みもよかったと思います。
※	自身の研究とは全く関係のないと思われるセッションでも、参加して話を聞いていると「なるほど!」「試してみよう!」と思える内容があったりして、研究全般の発展に貢献していると思う。あとは、そのような横のつながりを支援できるシステムができると、科学全般の進展には良いのかなと思う。
※	ランチセミナーの当日チケット配布システムが分かりにくかった。
※	若い人の視野を広げる意味でも、日本の他学会や、海外の研究者のしかも中堅どころの招聘を望む
※	実施会場の問題(宿泊・交通機関)も勘案して、あまり巨大な集会としない方がメリットが多いと思った。12月(師走)の開催は、参加が困難な場合が多いので、秋口にあるのが望ましい。
※	ランチョンセミナーの当日券は指定の12:15前に行ってもなかったですね。不満です。
※	分子生物学会だけでも大きな学会なのに、生化学会と合同開催にするメリットがよくわからない。
※	ランチョンセミナーの事前整理券を持っていない場合に、12時15分に並ばせる意味が分からない。プレナリー・レクチャーが聴けなかった。
※	昔に比べると学会が大きくなりすぎて、内容も希薄、今ひとつである。もう少し研究分野に分けて、サテライトの学会をやった方がよいのではないかな。
※	ランチョンセミナーのチケットは朝に配布してほしい。お昼並ぶ時間をもつたいないし、直前のセッションを聞いていると間に合わない。
※	未来志向の素晴らしい会合でした。特にITシステムとガチ討論は高く評価しています。次年度以降も続けて頂きたいと思います。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	セッションによっては会場が狭く入ることすらできないものがあった。
※	10年ぶりくらいに参加しましたが、低調な感じでした。以前の分子生物学会は遺伝子操作マウスなどを用いて個体レベルの現象を分子レベルで理解しようとする気概にあふれた印象を持っています。今回は細胞レベルでの事象についての解析がほとんどであると感じました。実際、7月に行われた神経科学学会で発表された大御所の先生方にはほとんどお目にかかりませんでした。現状が続くようだと大学院生時代から二十年以上在籍した分子生物学会から数年後には退会するとおもいます。
※	合同開催を維持してほしい
※	知の生産者から知の消費者となれる、とても良い学会でした。事務局の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
※	特別講演が終わってランチョンに行ったら整理券が無効になっていた。さすがに勘弁してほしい。
※	ランチョンセミナーの予約がネットだったためなかなか繋がらず、繋がった時には既に定員に達していた。他の方法を考えての方がよろしいかと思えます。会場はコンパクトなようですが、端から端まで移動するのは結構時間を要します。もう少し案内表示を大きく、数を増やした方がよいと思いました。
※	ポスター会場が数カ所に分けられていたので、移動する手間がかかるので一カ所に集積して欲しい。
※	ランチョンセミナーの事前予約をやるのであれば、100%予約で出して欲しい。部分的に予約で残りは当日の会場前に並ぶのは時間の無駄(公演中に並ばなければいけなかった)。
※	ランチョンセミナーの事前申し込みが一遍になったからかもしれないが、なかなか繋がらず、本当に困った。もっと良いシステムを考えてほしい。
※	よい大会であったと思います。
※	大会運営とはあまり関係ないかもしれないが、私立大学の薬学部にも属しており、12月の学内行事(OSCE)に向けた、実習担当のため、最近の年会に参加したいが参加できない状況が続いている。研究と教育の両立ができるとうれしい。
※	口頭発表のあとでポスター発表がくるような流れが好ましい。口頭発表で関心を持った演題をより詳しくディスカッションできるから。今回逆の演題が多く、もったいないと思う。
※	ランチョンセミナーを従来の朝に整理券を配る方式に戻してほしい。
※	今年の大会は、近年では最もよかった学会ではないでしょうか。このような感じでずっと続けてもらえたらなと思いました。
※	企業の展示ブースやランチョンセミナーは、最新技術の情報を手に入れるために、非常に重要だと思います。ランチョンセミナーの数が減りつつあるのは仕方がないことだと思いますが、研究者が最新技術の情報をランチョンセミナーで手に入れている(たとえお弁当に惹かれて参加したとしても)ということ、そして、その情報が、購入する機器類や試薬を決めるのに大きく影響していることを、もっと研究者側から企業へとアピールした方がよいかと思いました。
※	分子生物学会としてもみても生化学会としても、充実していたと思う。今後もこのような形をできるだけ取ってほしい。
※	海外からの招聘に使っている分の予算を、日本人の学生の参加費補助に充てるとか、参加費を下げるとか、別の使い方をすべきでしょう。シンポジウムの英語発表も無意味ではないでしょうか。それがあからかといって、海外からの参加者が増えるとはとても思えないし、そんなものを国際化とは言わない。「発表が日本語であったとしても、ぜひ参加したい」と海外の研究者が思うような大会にしていくことこそ、真の国際化である。
※	昨今の宿泊費の高騰により、組織内の支払い上限を超えるようなことができた。神戸はまだ良かったが、他学会で京都開催があったが通常5000円のような宿でさえ、15000円を超えるような金額設定もあり、今後の開催地の選定には「学会場から30分程度で10000円以内で泊まれるような環境」を是非考慮していただきたい。
※	ポスター発表最終日(12月3日)に、ポスター発表の終了後、企業ブースやポスター会場の後片付けを始めるのが早すぎると思います。発表者であるにも関わらず、ポスターは大会関係者に撤去され、会場から追い出される状況で、とても不満に感じました。以後、このようなことが起きないことを希望します。
※	毎年とは難しくても、2年に1度でも良いので、同時開催を強く支持します。同じような内容の学会に何度も出されるのは、研究者にとって時間の無駄使いです。学会の理念が違うと仰る先生もいますが、現実的な問題として、「分子・生化学を別々に開催している時に、同じ演者の先生が、同じような内容で、ワークショップやシンポジウムやポスターで発表」しています。分子・生化学が別々に開催された時の、2つのプログラムを並べてみれば、一目瞭然です。